

芸術文化学部設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類

I 設置の趣旨と必要性

1. 芸術文化学部設置の背景と学部の理念・目的

(1) 21世紀における新大学の役割

大学改革に対する国民的要請の背景には、国際化、情報化といった世界的動向に加え、わが国における少子高齢化の急激な進行と、長期にわたる社会経済の沈滞化及びそれによる国際競争力の低下などがある。21世紀は「知の時代」といわれ、知の創出と人材育成が産業と社会を先導する時代である。そして、「知の時代」を支えなければならないのが、人材養成とあらゆる分野の学術研究及び生涯学習の拠点として期待される大学であろう。とりわけ、地方では国立大学への期待に極めて大きいものがある。

(2) 21世紀の産業と芸術文化

高度経済成長時代には成長産業をいかに発見し、大きくするかが大切であった。それを実現・成功させる企業が栄えた。しかし、20世紀末からの産業構造の大きな変化と、ハードからソフトへという時代の要請に基づき、21世紀の産業は芸術文化の香りを色濃く醸し出すことが重要となっている。すなわち、人々の生活に根ざした生活文化産業が基礎となって、そこから派生する様々なニーズを満たす産業が創出される。こうした産業構造のもとでは芸術文化に関する感性・経験・ノウハウが様々な経済経営技術や科学技術と並んで重要となる。しかしながら、このような文化醸成の視点から見たとき、従来の芸術系高等教育機関の教育研究における役割が十分であったとはいえない。

(3) 地域からの高岡キャンパスへの期待

高岡キャンパスにおける新学部創設の原点は、地域に開かれた大学として、これまで高岡短期大学が果たしてきた高岡を中心とする北陸の伝統産業の継承・発展させること、及び富山大学教育学部において富山県師範学校以来綿々と受け継がれてきた富山県における美術教育の伝統を継承し、発展させることにある。他方、富山県全体の高等教育発展のためには高岡地区にも生涯学習や社会人再教育の拠点の設置が望まれる。この点で高岡キャンパスの役割は非常に重要であり、新大学の教育・研究の成果を地域へ浸透・展開するという役割も担う必要がある。すなわち、ここ高岡に置く新大学の学部は、芸術文化という特定の分野を中核としながらも、社会科学、自然科学なども含む幅広い領域をカバーする内容が望ましい。

(4) 芸術文化学部の理念と目的

このような視点から、芸術文化学部においては、他大学に見られるような芸術を極めることに主眼を置く教育・研究だけではなく、むしろ『芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようとする意欲的な人材の育成』と、『地域の幅広い伝統産業を継承し、いっそう発展させることのできる人材の育成』を目指し、意欲的な教育・研究を展開しようとするものである。

資料1-1(39頁)及び資料1-2(40頁)は、新大学における芸術文化学部の位置付け及び役割並びに、芸術文化学部の理念・特徴を視覚化したものである。

2. 高岡短期大学を芸術文化学部に移行させる必要性

(1) 高岡短期大学は、地域の多様な要請に積極的に応え、広く地域社会に対して開かれた特色ある「国立短期大学」として、昭和58年10月に産業工芸学科、産業情報学科の2学科で開学した。以来、地域産業の充実と発展のために貢献できる人材、地域社会のニーズに応えるべく人材を養成してきた。また、昭和63年4月には1年制の専攻科を設置し、更に、平成7年4月には1専攻科を3専攻科(産業造形専攻、産業デザイン専攻、地域ビジネス専攻)に改組するとともに2年制の専攻科とし、より専門的知識を有する人材を輩出してきた。

(2) 高岡短期大学はこの20年間にわたり地域の伝統産業を継承し、発展させるべく、実践的・経験的な教育を実施し、地域の要望に応じてきた。しかし、近年、地域産業の高度化が進み、より専門的な知識を有する人材の養成が求められていることに加え、幅広い教養と、問題解決能力を有し、かつ、コミュニケーション能力のある人間性豊かな人材の育成が強く求められている。

このような社会のニーズに応えるためには、芸術系分野においても、充実したリテラシー教育、幅広い教養教育および専門教育をバランスよく組み合わせた教育が不可欠である。しかし、現在の短期大学の教育課程では、これらを系統的に教育し、社会が求める人材を養成することは困難であることから、高岡短期大学を4年制の芸術文化学部へ転換することが是非とも必要である。

(3) 近年、高岡短期大学卒業生の専攻科への進学並びに他大学への編入学者が増加している。これら学生の4年制大学志向に応えるためにも、高岡短期大学を4年制学部へ改組する必要がある。

(4) 高岡短期大学では富山県内国立3大学の再編・統合を機に、高岡短期大学の工芸、デザイン、マネジメント、情報、工学系の教育実績を持つ人的資源並びにこれまで美術教育に実績のある富山大学教育学部美術教育講座の人的資源を最大限に活かし、従来の美術系学部とは一線を画した芸術文化学部へ転換し、社会の要請に応えようとするものである。

- (5) このため芸術文化学部は、「融合教育による総合的資質の育成」、「芸術文化の創り手と使い手の育成」を教育目標に掲げ、芸術文化学科1学科5コース制（造形芸術、デザイン工芸、文化マネジメント、デザイン情報、造形建築科学）で、学生の視点に立った教育内容を実施するなど、これまでの国立大学にはない全く新しい芸術文化系分野の学部を設置するものである。

3. 芸術文化学部が養成する人材

(1) 芸術文化学部の人材養成目標

資料2（41頁）は、芸術文化学部と従来の美術学部のカリキュラム内容並びに専任教員の専門性に関する「構想能力」、「表現能力」、「専門知識」、「マネジメント能力」、「IT能力」及び「コミュニケーション能力」を数値化し、図式化して比較したものである。

また、資料3（42頁）は、芸術文化学部における5つのコースが包括する部分を文科系—理科系軸と、表現系—実用系軸によって図式化したものであり、芸術文化学部が「融合教育による総合的資質の育成」及び「芸術文化の創り手と使い手の育成」を目指していることを示している。

1) 融合教育による総合的資質の育成

芸術文化学部は、すでに述べたような社会環境の変化や地域からのニーズに対応すべく、芸術文化を中核として、人文科学、社会科学、自然科学、情報技術などの諸学問の融合によって新しい教育研究体制を有する。本学部では、芸術、文化から人間や自然、環境まで幅広く深い理解と素養をもった社会人を養成する。すなわち、それぞれの専門分野に関する学識、技能のみならず、むしろそれらを支える幅広い教養、情報化及び国際化社会に対応できる情報処理能力と語学力に優れ、多角的に物事を見つめ、判断できる総合的な資質を備えた人材を養成する。

2) 芸術文化の「創り手」と「使い手」の育成

伝統産業の技能を継承し、発展させる人材を育成することも、本学部には課せられた使命の一つである。しかし、伝統産業の技能は、孤立して存在できるものではなく、創り手と受け手（ユーザー）とのよい関係がなければ、存在できない。そのために本学部は、伝統工芸を含めた「芸術文化の創り手」だけでなく、芸術文化を深く理解し、社会に積極的に還元し、芸術文化の振興と定着を進める、いわば「人々を啓発する優れた使い手」も同時に養成する。そのためにも、上述のような総合的資質を備えた人材の養成は不可欠である。

(2) コースの人材養成目標

1) 造形芸術コース

造形美に対する鋭い感性と人間社会に対する深い関心をベースに、伝統的な表現技法だけでなく、情報技術に基づく表現技法の基礎知識の上に立った斬新な発想と創造活動ができる人材、多様な思想や感性を持った人々とも造形表現を通じてコミュニケーションができる人材、さらには芸術を社会や産業に活かす活動ができる人材の養成を目指す。養成される人材の特徴は、

- ・ 技法の枠組みにとらわれることなく表現できる造形分野の芸術家
- ・ 日本の伝統工芸や西欧的芸術指向を超越できる造形作家
- ・ 幅広く造形芸術を理解して社会・経済活動に活かせる企画担当

卒業後に活躍できる分野としては、

- ・ 作家、教員、生涯学習指導者のほか、画廊、放送、映像制作、出版、広告、印刷関係への就職が挙げられる。

2) デザイン工芸コース

金属、漆、木材などの伝統工芸素材と技法を踏まえつつ、従来の工芸やプロダクトデザインの枠組みにとらわれない工芸とデザインの新しい世界を切り開き、新規で先端的な工芸や、時代のニーズにマッチした新しい生活用品としてのモノを提案できる人材を育成する。

養成される人材の特徴は、

- ・ 工芸を産業として捉え、マネジメントできる工芸作家、工芸分野の企画担当
- ・ 伝統工芸文化の特性を活かすことのできるプロダクトデザイナー
- ・ 日常生活に根ざした視点から各種の生活用品を提案できるデザイナー、企画担当

卒業後に活躍できる分野としては、

- ・ デザイナー、工房経営者、工芸家などのほか、小売、卸売、日用品、工芸品、建材関係への就職が挙げられる。

3) 文化マネジメントコース

グローバルな視点で、地域社会の発展や企業経営に芸術や文化を活かし、人々の生活を美しく輝かせることができる人材、言い換えれば、文化行政や文化産業に関わり、文化の視点からの街づくりや企業経営ができる人材、さらには地域の魅力を引き出し、街の活性化に参画し得る人材の育成を目指す。

養成される人材の特徴は、

- ・ 芸術文化を地域の資源として育て、活かすことができる企画担当
- ・ 資源として地域の伝統文化を活かした企画が立てられる公務員、学芸員、マスコミ関係者
- ・ 地域の芸術文化と国際交流を結びつけることができる企画担当

卒業後に活躍できる分野としては、

- ・ 文化プロデューサー、地域プランナー、学芸員のほか、観光産業、文化関連NPO、文化事業、各種企業の広報文化事業部門、官公庁、マスコミ関係、文化会館・各種ホールなどへの就職が挙げられる。

4) デザイン情報コース

デザインは、構想・発想部分と表現・造形部分から成立する行為である。21世紀では、構想・発想部分がより重要であることが認識されつつある。この構想力、発想力とコンピュータ利用技術を併せ持ち、様々な形態に情報を加工し、的確にかつ感性豊かに伝達することのできる人材、言い換えれば、計画、設計、調整、伝達という広義のデザインができる人材の育成を目指す。

養成される人材の特徴は、

- ・ 情報の文化的活用を企画できるデザイナー、企画担当
 - ・ 経営戦略に基づいたデザインができるデザイナー、企画担当
 - ・ コミュニケーションを科学的に理解し、表現・伝達できるデザイナー
- 卒業後に活躍できる分野としては、
- ・ デザイナーのほか、情報機器、ソフトウェア、展示、印刷、出版、広告、映像制作、一般企業の情報企画部門などへの就職が挙げられる。

5) 造形建築科学コース

モノのデザインには、形態としての美しさとともに機能、強度、安全性、さらにはコストや循環性などを考慮できる総合的な見識が必要である。このために、芸術的感性と工学の理論・知識を基礎として、人々の生活や社会に役立つ「製品」や「建築」とは何か、いかにあるべきかを総合的視点で考えられる人材の育成を目指す。

- 養成される人材の特徴は、
- ・ 技術を理解して新製品の企画・デザインができるデザイナー、商品開発担当
 - ・ 地域の特性を活かし、リサイクル、環境に配慮した設計ができる建築家、インテリアデザイナー
 - ・ 工芸、デザイン産業の製造に携われる工学の素養を備えた技術者
- 卒業後に活躍できる分野としては、
- ・ 建築士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、環境デザイナー、製造技術者などのほか、工芸産業、電気機器、自動車部品、素材、福祉・医療機器、小売、建築、不動産、住宅関係などの企業や官公庁への就職が挙げられる。

4. 学部の設置及び学生受入時期

- 学部の設置時期 : 平成17年10月
- 学生受入れ時期 : 平成18年4月

II 芸術文化学部の特徴

1. 芸術文化学部の果たす役割

(1) 新大学における芸術文化学部の役割

富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学の3大学が下記の基本理念の下に新大学を設立することに合意した。この合意に基づき、高岡キャンパスに課せられた使命を果たすために、芸術文化を中核とし、人文科学、社会科学、自然科学、情報技術などの諸学問の融合によって芸術文化の振興をはかる。それにより、国際的に通用するような学術情報の発信と、芸術文化の中核を担う社会人の養成を行う。

基本理念：

「新しい大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、高い使命感と創造力ある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化と人間社会の調和的発展に寄与する。」

(2) 新しい中核的社会人の養成

芸術文化を切り口として地域社会の中核として活躍できる人材、国際社会の場にも出て行ける人材、あるいは21世紀の新しい芸術文化を創り得る人材の養成を目指す。このために必要な教育研究体制と教育システム及び教育方法等を整備する。

2. コースの構成

芸術文化学部は芸術文化学科の1学科のみを有し、この学科は「造形芸術」、「デザイン工芸」、「文化マネジメント」、「デザイン情報」及び「造形建築科学」の5コースにより構成されることを特色とする。

すでに述べたように、芸術文化学部は、社会環境の変化や地域からのニーズに対応すべく、芸術文化を中核として、人文科学、社会科学、自然科学、情報技術などの諸学問の融合によって新しい教育研究体制を有することを目指している。そこで、上記5コースを5学科で構成すると、教員は学科に所属するので、各教員は当該学科に所属する学生の教育が本務となるため、ともすれば他学科の学生に対する教育が疎かになり、複数学科の学生を対象にした授業も実施しづらくなるなど、学科間の目に見えない垣根が本学部の目指す「融合教育」にとって大きな障害となる恐れが生ずる。

他方、1学科5コースで構成した場合、主たる担当コースが存在したとしても、全教員は一つの学科に所属するので、基本的には何れのコースの学生に対しても等しく授業を行う義務が生じる。学生は、カリキュラム上許される範囲内で、何れの教員の授業も基本的に受けることができる。

また、必修科目を極力少なくするとともに、他コースの授業科目を履修できるよう時間割の配慮等の措置をとる。このようにコース間の垣根は学科間のそれに比べてはるかに低くなり、学生にとって履修科目選択の幅は5学科制に比べて格段に広がることは明白である。

以上、1学科5コース制をとることによって、諸学問の融合による新しい教育研究体制の確立が可能となる。

高岡短期大学

学科(2年制)

(単位:人)

学 科	コ ー ス	入学定員	収容定員	備 考
産業造形学科	金属工芸コース	50	100	
	漆工芸コース			
	木材工芸コース			
産業デザイン学科	プロダクトデザインコース	25	50	
	ビジュアルデザインコース			
地域ビジネス学科	経営コース	125	250	
	情報コース			
	国際・英語コース			
	国際・中国語コース			
計		200	400	

・平成17年4月まで学生を受け入れる。

専攻科(2年制)

専 攻	入学定員	収容定員	備 考
産業造形専攻	14	28	
産業デザイン専攻	5	10	
地域ビジネス専攻	6	12	
計	25	50	

・平成19年4月まで学生を受け入れる

新大学

芸術文化学部

(単位:人)

学 科	コ ー ス (仮称)	入学定員	収容定員	備 考
芸術文化学科	造形芸術コース	115	460	
	デザイン工芸コース			
	文化マネジメントコース			
	デザイン情報コース			
	造形建築科学コース			
合計		115	460	

・平成18年4月から学年進行で学生を受け入れる。

3. 地域社会への貢献

芸術文化学部は、高岡短期大学及び富山大学教育学部が長年にわたり果たしてきた地域貢献を基盤として、質・量ともに地域の要請に応える大学開放事業を推進する。

これらの地域貢献は、富山県地域をはじめ全国の企業と一般市民、専門研究者、専門技術者を対象に幅広く開放事業を行い、地域の産業振興、生涯学習の推進など多様な要求に積極的に応える。広く地域社会に対して開かれた特色ある学部として、「交流と貢献」を理念として任務を果たすため以下の取り組みを行う。

- (1) 新大学において設立を予定している地域連携推進機構の地域づくり・文化支援などの事業を主に担当する部門を高岡キャンパスに設置し、産業と文化の支援をはかる。
- (2) 造形、工芸、デザイン、建築、材料、文化政策、アートマネジメント、情報技術、語学、観光などにおける「共同研究」、「受託研究」、「技術相談」及び「公開講座」を行う。
- (3) 教育・研究成果等の「展示公開」を行う。
- (4) 広く地域に大学の「施設開放」を行う。
- (5) 地域の産業、文化の発展に貢献するため「特別公開講演会」を行う。
- (6) このほか、「インキュベーション教育事業」、「産学官交流事業」及び「国際交流事業」などを行う。

Ⅲ 教育課程の編成の考え方

芸術文化学部の教育理念である「芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようとする自発的に行動する意欲的な人材の育成」を目指し、次のような科目構成及び卒業研究・制作によりコースを編成する。

学習の動機づけを円滑に支援する科目編成に沿って学生自らが目標を定め、4年間にわたって自発的に学習を進めることにより、高い達成感の充足と、横断的な素養を形成しつつ段階的に専門分野へと誘導し、結果として4年一貫教育を完結するものである。

また、これらに加えて、美術科(関連)教員免許取得、学芸員資格取得を視野に入れて、他学部との連携によって教職科目等関連科目を履修することにより、社会での活躍の可能性を広げる。

芸術文化学部の卒業要件単位は130単位とし、教養教育科目を50単位以上、専門教育科目を80単位以上履修しなければならない。

なお、詳細については、資料4-1(43頁)のとおりである。

1. 教養教育科目(1~4年次にわたって50単位以上を履修)

(1) リテラシー科目(1~2年次に22単位以上を履修)

専門分野を問わず4年間の学習を進める上で必須となる基礎能力として、情報収集・処理能力、多角的な見識、思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力、そして豊かな人間性が挙げられる。その養成のために外国語(8単位以上)、情報処理(4単位以上)、健康スポーツ(必修2単位)及び導入ゼミ(必修4単位)などをリテラシー科目として22単位以上履修させる。

(2) 立山マルチヴァース講義(1~3年次に2単位以上を履修)

これと並行して、3キャンパス合同講義「立山マルチヴァース講義」の『感性をはぐくむ』、『富山学—わたしの富山』及び『心(こころ)、身体(からだ)、そして生命(いのち)』の3授業科目から、最低1科目を履修させる。

(3) 幅広い教養教育科目(1~4年次に26単位以上を履修)

幅広い教養教育科目を26単位以上履修させて、人格形成と専門分野への関心を促す。英語は、学生の学習の方向性に応じて、社会で自信を持って活動できる素養となるよう、専門分野を学びながら4年間にわたって履修させる。

2. 専門教育科目(1~4年次にわたって80単位以上を履修)

専門教育科目は、学部全体としての専門基礎科目である「学部共通科目」、複数のコースにまたがる横断的専門科目としての「基幹科目」および各コースの特徴的専門科目である「展開科目」、そして「卒業研究・卒業制作」の4種類で構成される。

(1) 学部共通科目(1~2年次に20単位以上を履修)

芸術文化学部において専門的学習を進める上で必要な基礎科目を、①芸術の理解、②芸術文化と自然・社会との関係の理解、③造形芸術・デザインの技法の3分野に

分け、コースごとにそれぞれ必修または選択必修として履修させ、専門分野の興味を深め理解を助ける。

(2) 基幹科目 (1～3年次に2.0単位以上を履修)

この科目は展開科目の基礎となる。造形芸術、デザイン工芸、文化マネジメント、デザイン情報、造形建築科学の2つ以上のコースにまたがる横断的専門科目で、専門分野における学習の基幹を形成させる。基幹科目が展開科目と関連づけられている場合は、当該展開科目の受講資格となる。

(3) 展開科目 (2～4年次に2.0単位以上を履修)

5つのコースそれぞれを特徴づける専門科目であり、選択必修としてコースごとに所定の単位以上を履修させる。ただし、可能な限り他コースの展開科目も履修できるように開講し、コースを越えて専門分野を横断的に学ばせる。

(4) 卒業研究・制作 (4年次に8単位を履修)

各コースにこだわらず全ての学部学生に、2～3名の教員により構成された卒業研究分野を、既履修の必要条件とともに呈示する。卒業研究分野は、構成する教員が指導するテーマの見える名称となっている。必要条件は、それぞれの卒業研究分野において研究を進める上で求められる技能と知識である。学生は、3年次までに培った専門分野の技能及び理解と学習意欲により自ら卒業研究分野を選択し、芸術文化学部卒業生としての矜持の礎を修める。

基幹科目により目標とする専門分野をある程度定め、ついで展開科目において芸術文化学部の専門分野を横断的に学び、さらに専門分野への興味を深めた上で、卒業研究・制作課題と指導教員を選択させるので、学生は卒業研究・制作に積極的に取り組むことができる。

3. 授業運営

上記の教養教育科目及び専門教育科目では、芸術文化に関する感性・知識・技術などの能力を実践的に修得させるだけでなく、専門知識を横断的に学ばせる融合教育により総合的な資質を形成することを重視し、次の点に十分に配慮した授業運営とする。

(1) 問題解決能力の形成

人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を自ら発見し、自ら調べ、学び、考え、主体的に判断して解決する能力を幅広い分野の知識・技術の融合によって達成する。

(2) 国際化・情報化への対応

コミュニケーションの道具としての英語能力の育成、異文化の理解など、国際化への対応能力を育成する。とりわけ、情報通信技術の飛躍的な発展に対応できる能力を育成する。

(3) 社会への貢献

単に技能・知識の獲得だけではなく、それらの技能や知識の応用能力と、それを駆使して人々の暮らしや社会に貢献することを考える力を養成する。そのために他人と協調し、他人を思いやる心、豊かな人間性を醸成する。

(4) 芸術文化振興への対応

生活に芸術的調和と潤いのある真に文化的な社会を創設するために、芸術文化の分野で広く人々を啓発、教育・指導できる人材や21世紀の産業に芸術的特性を反映させることのできる人材が不可欠である。このような人材を育成するために、多様な芸術表現に触れるとともに実際的なものづくりをとおして、柔軟な発想力と美的感性を高める。

(5) 環境問題への対応

環境問題は今や全ての人々が取り組むべき課題である。芸術文化の領域でも環境への影響に配慮した活動が求められる。そのために関連する技術・材料が環境にどのような影響を及ぼすのかを理解できる基礎知識と、多角的に物事を見つめ判断できる能力を育成する。

IV 教育方法及び特色

1. 芸術文化学部の教育方法

芸術文化学部では、各コースそれぞれが特色ある独自の教育方法を取りながら他コースとの融合教育をはかるが、芸術文化学部共通の理念の実現に向けて、全コース共通で次のような教育方法を採用する。

教養教育科目のうち、「リテラシー科目」については16単位の必修及び選択必修科目を設け、基本的スキルの獲得を重視した教育を行う。他方、「幅広い教養教育科目」のほか、「学部共通科目」や「基幹科目」、「展開科目」など専門教育科目に関しては、融合教育を実現するためにできる限り必修科目を少なくし、選択必修または選択とすることとした。

ただし、これらの科目に関しては、各コースの教育目標を明確にするために、コース毎に選択必修の対象科目を指定するとともに、必修および選択必修の取得単位数をそれぞれ下記のように定めた。

(1) 教養教育科目

基本スキルと幅広い教養を獲得させることを重視した教養教育科目の開設

- ① 高度な情報リテラシーの獲得を目指した授業科目（各コース22単位中、必修と選択必修の合計16単位）

コミュニケーションに主眼を置いた英語と情報リテラシー科目、スムーズな大学生活への導入科目及び自発的に「調査、考察、発表する能力」を養う科目（コミュニケーション・トレーニングとしての導入科目）を開講する。

各コースの開設科目、実施形態、単位数、取得年次及び分野毎の要件単位等については、資料4-2（44頁）のとおりである。

- ② 立山マルチヴァース講義（各コース2単位中、選択必修2単位）

この科目は、「立山マルチヴァース講義」と称し、『感性をはぐくむ』、『富山学—わたしの富山』及び『心（こころ）、身体（からだ）、そして生命（いのち）』の3つの授業科目とする。

芸術文化学部のある高岡キャンパス、人文学部、人間発達科学部、経済学部、理学部及び工学部のある五福キャンパス、医学部及び薬学部のある杉谷キャンパスの3キャンパス〔資料1-1(39項)〕の学生・教員がお互いをよく知り、よりよい関係を築くために開設する授業科目であり、3キャンパスの教員が同じテーマで各教官がオムニバス形式で行う講義で、新大学すべての学生を対象に開講する。

各コースの開設科目、実施形態、単位数、取得年次及び分野毎の要件単位等については、資料4-3（45頁）のとおりである。

- 「立山マルチヴァース講義」について
（3キャンパスの特色を集めた教養教育科目）

【講義名】

『立山マルチヴァース講義』

この講義は、新大学を象徴するものとして3キャンパスの教員が合同で企画し、3キャン

ンパスの全ての学生を対象に開講するものである。

「人間を知り、富山を知り、人ともとのかかわり方を知ろう」というこの科目は、新たにひとつの大学となった3キャンパスの学生・教員がお互いをよく知り、より良い関係を築いていこうとするものである。地域を連想させる名称とすることで、新大学のアイデンティティーをアピールするものである。

【実施方法】

「立山マルチヴァース講義」は、『感性をはぐくむ』、『富山学—わたしの富山』及び『心(こころ)、身体(からだ)、そして生命(いのち)』の3つの授業科目から構成されている。

それぞれの授業科目は、3大学の教員が授業科目の題名に沿った内容の講義を分担し行う、いわゆるオムニバス形式の授業である。

3つの授業科目は、3キャンパスで各々1授業科目を実施し、3年で1巡りさせることにしている。

なお、実施に当たっては、平成16年度に北陸地区の各国立大学で予算化された「双方向遠隔授業システム」を最大限活用することとし、他キャンパスにおいても可能な限り多くの学生が受講できるよう配慮している。

【単位の認定】

芸術文化学部の学生は、3年次までに高岡キャンパスで開講される「立山マルチヴァース講義」の授業科目を選択必修2単位とし、卒業要件単位とする。

ただし、他のキャンパスで開講される同講義の他の授業科目を受講することができる。

【科目名、授業内容】

・『感性をはぐくむ』

「感性」とは、外界のさまざまな刺激の中から有用な情報を獲得し、また自分の考えや存在を周囲に知らせる能力である。

自己と他者の感性を知り、「共感」しあい、多様な感性をもつ人間が「共生」できるよりゆたかな社会の一員として、「感性」をさまざまな角度から理解し体験することをめざす。

具体的には、さまざまな専門分野の理論をふまえ、ものづくりの体験、生活用品・空間のデザインなどを通し、自己の感性を磨く。

・『富山学—わたしの富山』

富山の地域、地理的特性を踏まえて、景観、生活デザイン、医療、福祉、歴史などの多角的、総合的な観点から、「富山」について考察を加えていく。高岡キャンパス、杉谷キャンパス、五福キャンパスの各専門分野の教員がそれぞれの立場から考察を加えた「富山」を参考としながら、受講生が、各々、富山における「すみやすい、楽しい生活空間」を具体的なイメージとして描いていく。

・『心(こころ)、身体(からだ)、そして生命(いのち)』

「心(こころ)」とは、「身体(からだ)」とは、そして「生命(いのち)」とは何か。これらの相互の関係は、どうなっているのか。また、これらの総合体としての「人間」とは何か。こうした人の根源的な諸問題について、人文社会科学、生命科学、医療学(東洋医学と西洋医学)等の切り口からその本質を探るリング・ゼミナールである。

マルチヴァースとは

かつて真理は一つと考えられていた。一なる真理を求めての共同、それが大学(universitas)の語源である。

しかし今や、宇宙が一つでなく、多重であるように、真理も一つでなく、多数ある。この多様な真理を共同してこそ、21世紀の大学ではないだろうか。人文科学、社会科学、自然科学、生命科学の多様な真理の共存、それが multiversitas である。

「立山マルチヴァース講義」の講義名、担当者及び講義内容等については、資料4-4(46~49頁)のとおりである。

- ③ 幅広い教養を得るための授業科目(各コース2.6単位中、選択必修を1.0単位)
「人を知る」、「文化芸術を知る」、「社会を知る」、「自然とモノを知る」及び「自分を表現する」の5分野から成る教養教育科目。

各コースの開設科目、実施形態、単位数、取得年次及び分野毎の要件単位等については、資料4-5(50~51頁)のとおりである。

(2) カリキュラム編成と融合教育

教養教育科目と専門教育科目との有機的な結合をはかり、外国語科目、情報処理科目、幅広い教養教育科目を効果的に履修させ、その内容を専門教育科目につなげる。

① 教養教育科目

「リテラシー科目」、「立山マルチヴァース講義」、「幅広い教養教育科目」は、1~4年次でバランスよく履修し、専門教育科目との効果的な結合をはかる。

② 専門教育科目

- a. 「学部共通科目」(各コース2.0単位中、必修と選択必修の合計を1.0単位)

「学部共通科目」は、1~2年次で履修し、その後のより深い専門教育科目修学のための重要な基礎能力を養う。

また、全ての他コースの専門教育科目を履修する上で、この学部共通科目は芸術文化学部教育の基礎となる科目であり、学部内における広い融合教育の根幹となる。「芸術の理解」、「芸術文化と自然・社会との関係の理解」、「造形芸術・デザインの技法」の3分野からなり、21世紀に有用な視野の広い芸術的基礎スキルを獲得する。

各コースの開設科目、実施形態、単位数、取得年次及び分野毎の選択必修単位等については、資料4-6(52頁)のとおりである。

- b. 「基幹科目」(各コース2.0単位中、必修と選択必修の合計を1.2単位)

「基幹科目」は1~3年次に履修する。従来の専門教育における縦割り教育を一新し、コース間にまたがって横断的に提供する専門教育科目である。

この科目は基幹的な専門教育を提供するだけでなく、展開科目における融合教

育を可能にするための入り口となる。また、一部の基幹科目は、展開科目の受講資格となる科目であり、次の展開科目の専門性を理解するため履修しなければならない必要条件となるが、同時に他コースの展開科目も受講できる資格となるので、コース間の融合教育を促進する。

各コースの開設科目、実施形態、単位数、取得年次及び分野毎の選択必修単位等については、資料4-7(53~55頁)のとおりである。

c. 「展開科目」(各コース20単位中、必修と選択必修の合計を12単位)

「展開科目」は2~4年次に履修する。これらは各コースを特徴づける科目であり、わが国の21世紀社会の産業・文化振興を担う美術、工芸、デザイン、建築、造形科学、芸術に関する文化マネジメント分野に関わる人材を育成する専門性の高い科目群である。

展開科目の必修及び選択必修は、コース毎に定め、合わせて12単位を取得させる。残りは他の展開科目を履修し、卒業要件を満たすものとする。このことにより、可能な限り他コースの学生も履修ができ、芸術文化分野における先端的かつ独創的発想や提言が可能な、複合的能力を有したタイプの人材を生み出す源となる。

各コースの開設科目、実施形態、単位数、取得年次及び分野毎の選択必修単位等については、資料4-8(56~58頁)のとおりである。

d. 「卒業研究・卒業制作」(各コース必修8単位)

「卒業研究・卒業制作」は4年次に配置し、全ての科目が有機的に結合して、個々の学生の学習・研究成果のまとめとなる。(資料4-8(58頁))

また、卒業研究・制作の内容及び学生の要望に応じて、効果的で円滑な指導が可能となるよう、同分野あるいは異分野の複数教員指導体制をとる。

(3) 芸術と諸科学融合のカリキュラム

21世紀社会が求める「心の豊かさ」、「自然環境への配慮」及び「資源の有効利用」をキーワードにした教育は、文化マネジメント、造形芸術活動、工芸生産、デザイン、建築環境、人間工学、造形材料工学などを複合的に修学する教育内容とカリキュラムによって編成される。

(4) 高度な専門的知識・技能と先端的発想能力を身につけるための授業科目

「基幹科目」、「展開科目」により学生個々が選択した領域での専門性を深めるとともに、社会の要請に応える先端的な専門教育科目を配置し、これらを学生自らが選択し組み合わせることにより、これまでにない先端的発想能力を身に付けさせる。

(5) 充実した少人数教育の編成

リテラシー科目(例えば、基礎ゼミやプロジェクトゼミは、1クラス14~15人で実施)や展開科目(コースの専門科目であり、おおむね1科目10人程度で実施)

のみならず、その他の演習や実験実習科目においても可能な限り少人数できめ細かな授業を展開する。

2. コースの特色及び教育方法

(1) 造形芸術コース

a. 特色

幅広い表現・造形行為の体験をとおして、造形芸術を継承し革新できる人材、芸術を社会あるいは産業に活かせる社会人、幅広く芸術を理解し、人々を啓発できる人材を育成することを目指して、以下の能力を獲得させるためのコースを編成する。

- ① 素材の特性やマルチメディア情報を造形表現に活かせる総合的能力
- ② 将来の技術や素材の枠組みにこだわらない表現方法を生み出せる能力
- ③ 電子化された芸術情報を駆使して社会や産業に関われる能力
- ④ 芸術表現を人々の暮らしにどう応用するかを考え、提案できる能力
- ⑤ 絵画、彫刻などの造形表現を社会や産業に活かせる能力

資料5-1(59頁)は、造形芸術コースと従来の美術学科のカリキュラム内容および専任教員の専門性に関する「構想企画力」、「造形表現能力」、「芸術文化知識」、「マルチメディア表現能力」、「マネジメント能力」及び「コミュニケーション能力」を数値化し、それを図式化したものである。

この図から本コースでは、従来の美術学科に比べ「マルチメディア表現能力」や「コミュニケーション能力」などの育成に力点を置いていることがわかる。

b. 教育方法

従来の絵画、彫刻教育にとられない平面造形表現、立体造形表現、複合造形表現、メディアアート表現の分野を総合的に学ばせ、自己表現にとどまらない芸術活動、すなわち、成熟した文化社会を目指す21世紀において造形芸術活動が展開できる人材を養成するために、以下のような特色ある教育方法を採用する。

① 造形芸術の歴史と理論を知る

造形芸術コースは、一つの分野に限らず幅広い造形芸術体験をとおして総合造形芸術活動が可能なる人材を育成するが、そのような活動を支える世界の造形芸術の歴史と理論科目を1、2年次に設定する。また、将来の幅広い展開を望む学生には、4年間をとおして工芸、デザイン、伝統文化、建築、情報科学などの基礎理論関連科目の選択を可能とする。

② 総合的な造形芸術感覚と技能を養う

絵を描く、彫刻を造る、マルチメディア機器で表現するという造形芸術活動は、現在、多くが複合的に行われているが、全ての造形活動の基礎的な造形演習を1年次に複数科目設置する。

2、3年次においては、平面表現、立体表現、複合素材表現、マルチメディア表現の技法・技能を修得させる。

さらに、3、4年次にはこれらを有機的に結合させ複合的な表現科目を設置し、卒業研究・制作へ展開する。

また、工芸素材科目と技法科目やデザイン発想法科目と技法科目などを造形芸術活動に取り入れることも可能で、基幹科目、展開科目の中で選択し融合することができる。

③ 造形芸術活動を社会へ還元する資質を高める

造形芸術感覚や技法を社会へ還元するため、環境景観、メディア、建築計画、材料科学、建築構造、伝統芸能、文化政策などの関連科目を配置する。その履修によって、造形感覚を生かしたパブリックアート制作、造形建築素材での制作、舞台美術制作、映像芸術制作分野などへの社会進出が可能となる。

④ 造形芸術の幅広い展開能力を高める

他コースに関わる基幹科目、展開科目も造形芸術コースの学生にとって大半が履修可能な科目である。すなわち、学生個々の適性・要望に応じた独自の履修の組み立てが可能であり、これにより社会の要請に応じた、斬新な発想と創造活動ができる人材が育成でき、学生個々が新規に開拓する社会分野に進出することもできる。

資料5-2(60頁)は、造形芸術コースを選択した学生が受講する主な授業科目と、卒業後に活躍できる分野を表した図である。

(2) デザイン工芸コース

a. 特色

材料から発想し、美的要素を盛り込んで制作を進める工芸と、与件を総合して提案をまとめるデザイン行為を融合させて、新しいデザイン工芸の世界を担う人材を育成することを目指して、以下の能力を獲得させるためのコースを編成する。

- ① 伝統的工芸を新しい視点でプロダクトデザインに活かせる能力
- ② プロダクトデザインの進め方を工芸に活かせる能力
- ③ 材料の特質を科学的に理解し、特質を活かしたものづくりができる能力
- ④ 時代のニーズにマッチした作品や製品を提案できる能力
- ⑤ 工芸やデザインに工学の考え方を導入できる能力

資料5-3(61頁)は、デザイン工芸コースと従来の工芸学科のカリキュラム内容および専任教員の専門性に関する「企画立案能力」、「伝統工芸技法」、「素材理解力」、「デザイン表現能力」、「IT能力」及び「コミュニケーション能力」を数値化し、それを図式化したものである。

この図から本コースでは、従来の工芸学科に比べ「企画立案能力」や「コミュニケーション能力」などの育成に力点を置いていることがわかる。

b. 教育方法

21世紀社会における「人々の暮らしを豊かにする生活用具」あるいは、「日本の伝統文化に根ざした工芸の再発見」、「プロダクトデザインと工芸の展開」などをキーワードに、社会のニーズを開拓するとともに先端的で新規な作品と製品の提案が可能な人材を養成するため、以下のような特色ある教育方法を採用する。

① 工芸及びデザインの文化と歴史と理論を知る

デザイン工芸コースは、金属工芸分野、漆工芸分野、木材工芸分野、複合工芸分野、プロダクトデザイン分野を中心に科目を設定するが、このような分野を含めた幅広いデザイン・工芸論科目とデザイン史、工芸史科目を1～3年次に設定することにより、総合的に工芸・デザインの概要を理解し、現代社会における工芸・デザイン分野の展開をはかるための基礎能力を育成する。

② 専門的工芸技能を高め、複合的応用能力を養う

工芸教育では、技能の上達が重要な部分を占めるが、デザイン工芸コースでは、そのような従来の工芸教育に止まらず、コース内の展開科目においても金属工芸、漆工芸、木材工芸、プロダクトデザインの制作実習科目を個々の学生の目標に応じ自由に組み合わせて履修できる。このような多分野にわたる履修によって、多様な複合的工芸とデザインの知識、技能が蓄積され、新たな工芸製品や伝統技術を活かしたプロダクトの開発・デザインの提供が可能となる。また、あらかじめ複合工芸制作を内容とする演習科目も設定し応用能力を養う。

③ 工芸とデザインを融合し社会へ還元する資質を高める

美術工芸に止まらず、産業工芸品分野、さらに工業製品分野で活躍する人材を育成するため「工芸」と「デザイン」の融合を目指し、マネジメント、デザインのほか、建築、材料科学や人間工学などの関連科目の履修を可能にし、実生活に反映できる工芸を提案する能力を養う。

基礎工芸実習科目を修学した学生が、デザイン情報、文化マネジメントなどの関連科目を履修し、融合した教育成果を基に広く工芸を社会や産業に活かす能力を高める。

④ デザイン工芸の幅広い展開能力を高める

専門的な工芸実習科目を重視するだけでなく、他コースの代表的な「展開科目」を履修することにより、「人々の暮らしを豊かにする工芸品」や「機能性・安全性と美しさを兼備した製品」を提言するための基礎知識を備え、新たな工芸・デザインの企画、展開能力を養う。

資料5-4(62頁)は、デザイン工芸コースを選択した学生が受講する主な授業科目と、卒業後に活躍できる分野を表した図である。

(3) 文化マネジメントコース

a. 特色

多様な芸術表現に接するとともに、芸術文化支援を追究することにより、芸術文化を社会に定着させる実践的能力を有する人材の育成を目指して、以下の能力を獲得させるためのコースを編成する。

- ① 芸術文化の歴史を理解し、現代に活かせる能力
- ② 地域文化や伝統文化をグローバルな視点で理解できる能力
- ③ 文化の視点からまちづくりや企業経営を考えられる能力
- ④ ライフスタイルと芸術文化との関係を包括的に理解できる能力
- ⑤ 生活の中に芸術を浸透させる仕組みを創設できる能力

資料5-5(63頁)は、文化マネジメントコースと従来の芸術学科のカリキュラム内容および専任教員の専門性に関する「企画立案能力」、「文化理解力」、「芸術文化知識」、「造形技法習得」、「マネジメント能力」及び「コミュニケーション能力」を数値化し、それを図式化したものである。

この図から本コースでは、従来の芸術学科に比べ「企画立案能力」や「マネジメント能力」などの育成に力点を置いていることがわかる。

b. 教育方法

「モノ消費社会」から「時間消費社会」へ転換する21世紀において、芸術文化事業に対する総合的な視野を持ち、文化創造の環境を整えるための知識を身につけた、いつの時代にもどこの地域でも活躍しうる芸術文化の担い手を育成するため、以下のような特色ある教育方法を採用する。

- ① 芸術の理論と歴史に対する正しい認識と基礎能力の獲得
美学、芸術論、伝統芸能、日本美術史、西洋美術史、工芸史、デザイン史などの関連科目を設置し、さまざまな芸術文化へ対応できる柔軟な教養を獲得し、成熟した社会構築に貢献できる基礎能力を育成する。
- ② 芸術の実践と総合的な芸術感覚の涵養
造形芸術、工芸、デザインなどの関連実習科目を設置し、造形感覚や芸術を創造する能力を養い、あわせて芸術創造の現場への理解を深め、総合的かつ効果的に芸術をマネジメントする能力を高める。
- ③ 文化事業を展開する資質を高める
コミュニケーション、情報科学、社会調査、マーケティング、社会・公共政策、アートマネジメント、観光などの関連科目を履修、地域社会のなかで文化事業が果たす意義を理解し、文化事業を企画・経営するための基礎能力を高める。
- ④ 文化事業の実践能力の育成
博物館運営、文化財保存、パブリックスペース計画などの分野の専門教育科目を設け、さまざまな芸術環境の企画・運営について実際的な能力を養い、文化マネジメントに関する幅広い展開能力を高める。

資料5-6(64頁)は、文化マネジメントコースを選択した学生が受講する主な授業科目と、卒業後に活躍できる分野を表した図である。

(4) デザイン情報コース

a. 特色

計画、設計、調整、伝達という広義のデザイン行為全般に関わることができ、情報を、総合的見地からデザインできる能力を備えた人材、高度な構想力、発想力、コンピュータ利用技術を持ち、感性豊かに正確にコミュニケーションできる人材を育成することを旨として、以下の能力を獲得させるためのコースを編成する。

- ① 素材や事象に対する豊かな感性をのびし、ニーズに応じたアイデアを発想できる能力
- ② 情報を科学的に理解し統合してモノや情報を構想できる能力
- ③ 構想を実現するための計画を立案する能力
- ④ 高度の情報リテラシーにより、情報を自在に処理し、伝達できる能力
- ⑤ 広義のデザインを資源として捉え、新しい構想を戦略的に組み立てる能力

資料5-7(65頁)は、デザイン情報コースと従来のデザイン学科のカリキュラム内容および専任教員の専門性に関する「企画立案能力」、「デザイン表現能力」、「構想発想力」、「マネジメント能力」、「IT能力」及び「コミュニケーション能力」を数値化し、それを図式化したものである。

この図から本コースでは、従来のデザイン学科に比べ「構想発想力」や「マネジメント能力」などの養成に力点を置いていることがわかる。

b. 教育方法

「大量消費社会」に代わる、これからの成熟した社会において、デザインを抜きにして豊かな生活を語ることができない。モノや情報を総合的見地からデザインできる計画、設計、調整、伝達能力を備えた人材を養成するため、以下のような特色ある教育方法を採用する。

① デザインに対する正しい認識と基礎能力の獲得

人とデザインの関わりを学ぶためにデザイン史、工芸史、生活の中のデザイン、情報の読み方などの科目を履修し、これらの基礎知識を養うとともに、現代社会におけるデザイン情報分野に貢献できる基礎能力を養成する。

また、他コースの建築計画、メディアアート論、国際観光論などに関する科目の履修を可能にし、幅広い識見の涵養をはかり、企画立案力、構想・発想力の基礎を養う。

② 総合的なデザイン能力の育成

デザインマネジメント演習などデザインの基礎科目のほか、ブランドデザイン、インフォメーションデザイン演習、ビジュアルコミュニケーション、メディア・プレゼンテーションなどの各種デザイン演習課題を履修することにより、上記の幅広

い見識に立脚した構想・発想力を涵養するとともに、企画立案力、デザイン表現力、マネジメント力、コミュニケーション力、ITを使いこなす力などを獲得させる。

③ デザイン感覚の獲得と知の領域の拡大

展開科目にはデザイン感覚を高める複数の科目を設置し、色彩、形態、情報に関連した伝達方法に主眼を置いた演習・実習を行う。同時に人間工学概論、インタフェースデザインなどの講義科目や演習・実習科目も履修することにより、幅広い見識に立脚した構想力と調整力を育成する。

④ デザインの幅広い活用能力の育成

アートマネジメント論やマーケティング、ライフスタイルなど芸術文化や社会分野の科目のほか、伝統工芸や素材に関連する科目なども履修を可能とし、現代社会における文化の重要性を認識し、これからの社会におけるデザインの文化的活用能力を高める。

資料5-8(66頁)は、デザイン情報コースを選択した学生が受講する主な授業科目と、卒業後に活躍できる分野を表した図である。

(5) 造形建築科学コース

a. 特色

建築、製造産業関連の設計者、企画開発担当や技術者など、幅広い分野のものづくり産業で活躍できる、芸術的感性と工学的ものの考え方や知識を身につけた創造性豊かな人材を育成することを目指して、以下の能力を獲得させるためのコースを編成する。

- ① モノの形や材料を科学的かつ体験的に理解し、論理的思考で具体化できる能力
- ② 豊かな芸術的感性と技術を生かし、ニーズに応じた企画・設計をする能力
- ③ 審美性、機能性、安全性、循環性、経済性などを総合してデザインする能力
- ④ 人や社会に対して思いやりを持った住環境や生活機器を計画・技術開発・設計ができる能力
- ⑤ 情報の交換と議論を通じてチームで発案・企画・調整・具体化できる能力

資料5-9(67頁)は、造形建築科学コースと従来の環境デザイン学科のカリキュラム内容および専任教員の専門性に関する「企画設計能力」、「造形表現能力」、「工学知識」、「芸術文化理解力」、「IT能力」及び「コミュニケーション能力」を数値化し、それを図式化したものである。

この図から本コースでは、建築分野等を含む従来の環境デザイン学科に比べ「企画設計能力」や「工学知識」などの育成に力点を置いていることがわかる。

b. 教育方法

建築環境、人間工学及び材料科学を総合的に捉え、造形、デザイン分野と建築、材料などの工学分野を融合し「製品」や「建築」の機能、安全性、循環性なども考慮した設計ができ、21世紀社会が求める提案能力と企画能力を備えた人材を養成するため、以下のような特色ある教育方法を採用する。

① 造形美に対する感性の涵養

造形芸術史科目、造形芸術論科目、工芸史科目、工芸論科目、デザイン史科目、デザイン論科目、伝統文化、建築史などの芸術文化に関わる講義科目及び実験実習科目の幅広い履修をとおして、製品や建築の美しさを理解し、デザインや造形美に対する感性を涵養する。

② 科学技術の知識と論理的思考力の獲得

教養教育科目や学部共通科目においては、理工学の基礎知識と設計技術を学ぶとともに、基幹科目においては人間、構造、材料に関する工学の講義、実験実習科目を配置する事により、事象を論理的かつ定量的に取り扱う方法と考え方を学ぶ。そのことにより、人間と製品・建築の形や材料を科学的に理解し、論理的に考え具体化できる能力を育成する。

③ 工学とデザインに関する専門知識の修得と総合的な知識・能力の育成

展開科目には、建築空間デザイン、造形材料、人間工学の3分野に関する講義・演習・実験実習科目を設置し、主として製品に関わろうとする学生は人間工学科目及び造形材料科目を中心に、建築に関わろうとする学生は主として建築空間デザイン科目を中心に軸足を置いて学習し、専門的知識を深める。また、これらを複合的に履修することにより、問題解決のための総合的な知識と能力を高める。

④ 造形や建築に関わる幅広い展開能力の育成

生活空間に関連して文化マネジメント関連科目を履修することにより、文化と製品や建築との関連を学び、また、家具や工芸品の制作実習科目などデザイン工芸関連のものづくり科目とプロダクトデザイン関連の演習科目を学ぶことなどにより幅広い展開能力を養う。

資料6-10(68頁)は、造形建築科学コースを選択した学生が受講する主な授業科目と、卒業後に活躍できる分野を表した図である。

V 履修指導方法

芸術文化学部では、国際化、情報化が進む一方で、人口減少、少子高齢化問題を抱える現代社会において、芸術文化分野で十分な貢献ができる人材育成を目的とするカリキュラムを編成したうえで、学生個々が求める教育は可能な限り幅広く自由に履修できる教育方法を採用する。

授業科目の選択や必修については、リテラシー科目に一定の必修を設け基礎能力の充実をはかり、幅広い教養教育科目、学部共通科目、基幹科目、展開科目においては必修科目の設定を最小限にとどめる。また、選択必修科目を適宜設定することにより、幅広い組み合わせの融合教育と深い専門教育の選択を可能にする。学内での教養教育や専門教育のほか、学外での活動、実習、研修を行い、実社会と連携した教育を展開する。

こうした授業科目を学生個々の学習目標に応じて適切に選択させ、現代社会が求める複合分野、新規分野を自らが開拓する資質と豊かな人間性を身につけさせるためには、きめ細かな履修指導を行い、学生一人一人に効果的な履修計画を実現させることが重要である。

具体的な履修指導は、「1. 入学時のガイダンス」、「2. メンター制度(助言教員制度)」、「3. シラバスとオフィスアワー制度の活用」、「4. 学外活動・実習等に対する指導」及び「5. 履修モデル」によって進めていく。

1. 入学時のガイダンス

芸術文化学部を目指して入学する学生は、一つの分野を深めようとする学生、既存の諸学問を幅広く融合して新たな分野を開拓しようという学生、複数コースの科目を選択しながら自分の適性を見極めようとする学生など、多様なタイプが混在すると考えられる。こうした個々の学生のニーズに応じるため、入学時のガイダンスでは、①教育目的、②学部・コースの特徴と融合教育、③履修指導システム、④学習計画の立案方法、⑤大学生活の過ごし方などを丁寧にオリエンテーションする。

2. メンター制度(助言教員制度)によるきめ細かな履修指導

芸術文化学部の教育の特徴は、4年間を通した基礎教育、深い専門教育と幅広い分野の融合教育にあり、学生が複数コースにまたがって専門教育科目を履修する場合や、同一コースに限って専門教育科目を履修する場合などに分かれるため、入学直後から少人数のクラス制を設ける方法ではなく、メンター制度を導入し学生に対しきめ細かな履修指導方法を採用する。

(1) メンター制度の導入

一般に、メンターとは、信頼のおける助言者の意味で使われ、企業における社員教育等で導入されている。本学部では、教員一人あたりが1学年2～4名の学生を担当し、入学から卒業までの4年間にわたり、履修指導に止まらず、卒業後の進路指導も含め大学生活全般にわたって助言、指導することにより、学生の希望進路に沿った学習の促進と就業意識の醸成をはかる。

(2) 卒業研究・制作と関連づけた履修指導

このメンター制度を導入することにより、1、2、3年次であっても卒業研究・制

作の取り組み方や関連する内容、あらかじめ履修しておくべき科目等について相談や指導が受けられる。

(3) メンター制度を実施するための教員の資質向上

メンター制度を実施するために教員は、従来以上に学部全体のカリキュラム構成や教育内容を熟知するとともに、コース間の教育連携に対する高い意識を持たなければならない。そのために、「X 教員の資質の維持向上」にも述べるように、よきメンターとなるため必要なFD（ファカルティディベロップメント）を実施する。

3. シラバスとオフィスアワー制度の活用

融合教育を進める上で、履修計画の立案は非常に重要であり、学生に授業科目の詳細な内容や履修方法について指導しなければならない。そのためには、充実したシラバスを作成し活用するだけでなく、オフィスアワー制度を設けることにより、各教員による具体的な指導が可能となる。

4. 学外活動・実習等に対する指導

ボランティア活動、インターンシップなど学外実習等を実施するにあたっては、学習の場の確保、学外関係機関との連絡・調整、単位化の方法などが重要になるため、実践教育運営委員会などの運営組織を設置し、効率的な運用をはかるほか、事前・事後にきめこまかなオリエンテーションを実施し、学生と学外機関との相互関係の円滑化をはかる。

5. 履修モデル

芸術文化学部に入學した学生に対する履修指導に資するため、参考として各コースの履修モデルを提示する。

1) 造形芸術コース履修モデル

- ・造形作家（資料6-1（69頁））
- ・印刷・出版関連部門（資料6-2（70頁））

2) デザイン工芸コース履修モデル

- ・工芸作家（資料6-3（71頁））
- ・プロダクトデザイン関連部門（資料6-4（72頁））

3) 文化マネジメントコース履修モデル

- ・文化事業プランナー関連部門（資料6-5（73頁））

4) デザイン情報コース履修モデル

- ・コミュニケーションデザイン関連部門（資料6-6（74頁））
- ・映像制作関連部門（資料6-7（75頁））

5) 造形建築科学コース履修モデル

- ・素材・福祉・医療機器関連部門（資料6-8（76頁））
- ・建築・インテリア関連部門（資料6-9（77頁））

VI 入学者選抜の概要

芸術文化学部は「21世紀の産業や経済・社会活動に芸術は不可欠である」を理念として、芸術を社会に浸透させ芸術文化の調和的発展に寄与することを目的としている。この芸術文化は、絵画や彫刻などの純粋芸術だけではなく、工芸、デザイン、建築、演劇、伝統芸能の他、伝統産業をも視野に入れ、日常的な生活に息づく審美的価値を創造する文化を対象としている。この理念に即して、芸術を志向し制作者を目指す学生と、広く芸術を享受し地域に芸術文化を普及する意欲の高い学生を募る。

1. 受け入れる学生像

従来の美術学部を目指す志願者に加え、高等学校普通科や実業科卒業生など、芸術と芸術文化に関心を持つ学生を幅広く受け入れる。具体的には、芸術表現技術の修得を目指す志願者、デザイン分野で活躍を望む志願者、芸術体験や鑑賞が好きで芸術文化を経営の視点からマネジメントすることを目指している志願者、工学的思考と芸術的センスを持ち合わせたモノづくりの好きな志願者、工芸産業の生産方法や経営方法を学びたい志願者など、「芸術」を芸術表現、芸術文化、芸術産業として捉える学生を受け入れる。高校生などの志願者だけでなく社会人、留学生なども広く受け入れる。

2. 入学者選抜方法

推薦選抜、特別選抜並びに大学入試センター試験を課す前期日程選抜及び後期日程選抜を行う。これらには、他の美術系学部と共通するデッサン実技、小論文、修学意欲判定などを含めた選抜を実施する。多様な入学者を確保するために、入学選抜方法は、芸術表現技術の修練を積んだ実技系志願者や、芸術文化の普及に関心を持つ非実技系志願者など多岐にわたる受験者層が受験機会を得られるよう配慮する。デッサン実技を課さない志願者には、事象の全体把握や論理的分析などを含む総合的思考力を判定する検査科目を設ける。

これらの試験に加えて、すべての選抜に面接を課し、修学意欲を判定する。面接は、将来の進路、職業への問題意識の深さや問題解決の積極性を問う内容とする。

さらに、志願者が第2志望を選択できるよう、学部内での検査科目を単純で共通なものとし、コース横断的な志願者確保が可能になるよう配慮する。

以上の方針をまとめると、次のとおりである。

- ① 美術系学部志願者と芸術文化に関心のある文科系・理科系の志願者を募る。
- ② 高等学校普通科、商業科、工業科などの卒業生を対象に多様な選抜を行う。
- ③ 推薦選抜、特別選抜、前期日程選抜、後期日程選抜の選抜を行う。
- ④ 推薦、特別選抜では、大学入試センター試験を課さない。
- ⑤ 前期日程選抜、後期日程選抜では、大学入試センター試験を課す。
- ⑥ デッサンなどの実技検査を課す志願者と、小論文を課す志願者とに分ける。
- ⑦ すべての志願者に面接を実施する。
- ⑧ 第2志望合格を可能とする検査方法をとる。

類型	コース	推薦 (30%)	特別選抜 (若干名)	前期 (50%)	後期 (20%)
I 類 (60名程度)	造形芸術 (15名程度) 推薦 5名程度 前期 8名程度 後期 3名程度	対象 高校新卒, 既卒の 芸術系学部志願者 検査内容 ・実技 ・面接	対象 ・帰国子女 ・私費外国人留学生 ・社会人の芸術系学 部志願者 検査内容 ・実技 ・面接	対象 高校新卒, 既卒の 芸術系学部志願者 検査内容 ・センター試験 ・実技 ・面接	
	デザイン工芸 (30名程度) 推薦 9名程度 前期 15名程度 後期 6名程度				
	デザイン情報 (15名程度) 推薦 5名程度 前期 8名程度 後期 3名程度				
II 類 (55名程度)	デザイン情報 (15名程度) 推薦 5名程度 前期 8名程度 後期 3名程度	対象 高校新卒, 既卒の 芸術文化に関心 のある志願者 検査内容 ・小論文 ・面接	対象 ・帰国子女 ・私費外国人留学生 ・社会人の芸術文化 に関心のある志願 者 検査内容 ・小論文 ・面接	対象 高校新卒, 既卒の 芸術文化に関心 のある志願者 検査内容 ・センター試験 ・小論文 ・面接	注 a, b のい ずれかの選抜方法 を選択する。
	文化マネジメント (20名程度) 推薦 6名程度 前期 10名程度 後期 4名程度				
	造形建築科学 (20名程度) 推薦 6名程度 前期 10名程度 後期 4名程度				

注 1.

a	センター試験	実技	面接
b	センター試験	面接	

注 2. 第 2 志望は, 推薦, 特別選抜, 前期日程試験については, 類の中で考慮し, 後期日程試験については, 学科全体で考慮する。

VII 既存の学部等と別地に設置されるための学生、教員への配慮等

芸術文化学部は、新大学の1学部となり、他の学部とは、キャンパスが分かれる。このことが、学生等の経済的・時間的負担とならないよう、しかも充実した教育や研究が実施できるよう配慮する。

- ・ 学生の授業履修については、キャンパス間の距離的な問題を解消するため、基本的に教養教育科目等を本キャンパスで開講する。
- ・ 幅広く教養教育科目等が履修できるようカリキュラムや授業の開講方法を工夫する。
- ・ 遠隔授業システム（キャンパス間ネットワークでつなぐ）を導入し、他キャンパスの授業が受講できるようにする。
- ・ カリキュラムを工夫することにより、教員が半日や1日授業を担当しない日を設け、他キャンパスでの授業科目の開設を行えるように検討する。
- ・ 教員等がキャンパス間を移動しやすいように、公共交通機関の増便やシャトルバスの運行について検討する。

VIII 自己点検・評価

芸術文化学部の研究水準の向上をはかり、本学部に課せられた目的及び社会的使命を達成し、教育研究成果の地域社会への還元、教育の資質の向上をはかるため、芸術文化学部自己点検・評価実施規則を制定し、次の項目について自己点検・評価を実施する。

- ① 教育理念及び目標に関すること。
- ② 教育活動に関すること。
- ③ 研究活動に関すること。
- ④ 教員組織に関すること。
- ⑤ 施設整備に関すること。
- ⑥ 国際交流に関すること。
- ⑦ 社会との連携に関すること。
- ⑧ 管理運営及び財政に関すること。
- ⑨ 自己点検・評価に関すること。
- ⑩ 組織の活動に関すること。
- ⑪ その他、委員会が必要と認める事項。

また、文部科学大臣が認証した第三者評価機関により、次の事項について外部評価を受ける。

- ① 教育研究上の基本組織について
 - ② 教員組織について
 - ③ 教育課程について
 - ④ 施設及び設備について
 - ⑤ 事務組織について
 - ⑥ 財務について
 - ⑦ その他、教育研究活動等について
- なお、評価結果については、公表する。

IX 情報の提供

専門分野に応じ、教育、研究・制作の成果を学会等への発表や展覧会への出品、個展等の開催、紀要等の印刷物を発行する。

産学官連携を推進するため、産業界に対し共同研究、受託研究、コンサルテーション等の取り組み状況や研究者シーズを積極的に紹介する。

また、上述の活動状況や紹介を大学のホームページで広く提供する。

X 教員の資質の維持向上

教員の教授能力を高め、また、社会情勢の変化やニーズに対応できる教育内容及び教育環境の整備等について定期的に評価・検証を実施する体制を整える。

- ・ 教育方法の改善や教材の研究、教員の教育能力の向上をはかるためのFD（ファカルティディベロップメント）を積極的に実施し、そのための組織を立ち上げる。
- ・ メンター制度の効果的運用のため、教員に対し学部全体のカリキュラムや教育内容等を周知徹底するとともに、助言指導能力の向上をはかる。
- ・ 「基礎ゼミ」「プロジェクトゼミ」などの科目の教育効果を高めるために、教育内容、教育方法などについて定期的に教員間で話し合うとともに教育内容や教育レベルの充実・向上のためにFDを実施する。
- ・ 定期的に教育内容の検討を行い、その結果を教員にフィードバックするシステムを作る。
- ・ 学生による授業評価を実施し、報告書を作成するとともに、各教員に授業評価を還元し、授業の改善向上を推進する。
- ・ 教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の教育環境の整備を進める。
- ・ 協定校との研究者交流や制作物の展示交流を行う。
- ・ 教育研究の適切な評価の結果に基づき、教育研究組織の弾力的な見直しを行う。
- ・ 他キャンパスとのタイアップを促進することにより、コラボレーションを活性化し、研究の質を高める。

X I 学生確保の見通し

芸術文化学部における造形芸術コース、デザイン工芸コース、文化マネジメントコース、デザイン情報コース、造形建築科学コースの各コースに関する入学志願者の数及び質の確保の可能性について、美術・工芸・文化系学部への応募者数、入学者数、倍率等を学校基本調査等の既存の統計資料より読み取ると同時に、各新コース設置のために行った独自のアンケート調査の分析結果によると、ニーズに応える体制の整備により、十分な志願者数を確保できると考えられる。

1. 芸術系学部の入学志願者数等の推移

(1) 入学志願者数の推移

芸術系学部（音楽系除く）の入学志願者数は、資料7-1（78頁）及び資料7-2（79頁）のとおり平成10年度から微減傾向にあるが、全志願者数に対する芸術系学部の志願者数の割合で見ると、決して良いとはいえない経済情勢にもかかわらず平成10年度から14年度まで約2%のほぼ一定の割合を示しており、今後も比較的安定した志願者が見込まれる。

(2) 入学者数の推移

芸術系学部（音楽系除く）の入学者数は、資料7-3（80頁）のとおり平成8年度から一貫して上昇し、平成14年度には約13,000人となったが、平成14年度においてもなお5倍以上の高い競争率を示している。入学者数の増加は、学部・学科の多様化など大学側の努力の結果と考えられ、今後も志願者や社会のニーズに応えるような大学の改革が必要であろう。

さらに資料7-4（81頁）のとおり、平成12年度以降から「情報」、「文化」などを名称に掲げた新しい学部が登場しており、産業構造の変化やIT化の進展に伴う社会の多様なニーズ等を反映した「融合的」な傾向をみることができる。

芸術系学部の合計（音楽系除く）と芸術工学系学部を加えた「総合計」を見ると堅調な入学者数の伸びを示していることがわかる。

2. 芸術文化学部設置準備委員会（学内）が実施した独自のアンケート調査の分析結果による進学者数確保の見通し

平成15年11月に、芸術文化系大学を志望する高校生を主な対象とする入学需要調査を実施した。マクロ的にみて6倍強の実質倍率の見込める「美術・工芸・文化系学部」志望者のニーズ調査の回答結果を分析すると、新学部が企画する構想が高校生の希望に多々あることが判明した。

(1) 高めたい能力から見たコースへの期待

資料7-5（82頁）及び資料7-6（83頁）のとおり、芸術文化学部の各コースで獲得できる能力に対する期待を示している。「Ⅲ 教育課程の編成の考え方」及びコースの特色で述べたコースごとに目指す能力を、次のように特徴づけ調査を行った。

- ・ 造形芸術コース：さまざまな手法で芸術的に表現できる能力
- ・ デザイン工芸コース：伝統的な技術を新しいセンスで現代に活用できる能力

- ・文化マネジメントコース：歴史や文化的背景を知り、芸術を鑑賞し説明できる能力
- ・デザイン情報コース：アイデアを発想して、新しいモノを構想する能力
- ・造形建築科学コース：素材や空間、環境を科学的に知り、ものづくりに生かせる能力

従来の芸術系の内容に近い造形芸術、デザイン工芸及びデザイン情報コースへの期待は8割を超えている。一方、芸術系志望の高校生にとって新しい分野である文化マネジメントコースや造形建築科学コースは先の3コースに比べてやや低いとはいえ、約7割の期待が集まっている。いずれのコースについても、「思わない」がきわめて少数であることから、本学部の教育に対しての期待は、総合的にみて極めて高いと考えられる。

(2) 将来取り組みたい仕事から予想される学生確保

資料7-7(84頁)のとおり、芸術文化学部教育内容から予想される卒業後に取り組んでみたい具体的な職業に関する高校生等へのアンケート結果から、新学部各コースへの受験生の高い支持が読み取れた。このことから、高校生等が将来、芸術や芸術文化、芸術産業に関連した職業を希望する場合、芸術文化学部の各コースを志望する可能性が高いと予想される。また、芸術や芸術文化を人に教える職を希望する者が約3割にのぼり、美術科の教員を望むことも判明した。

このアンケートをコースごとに分析すれば、以下のようになる。

1) 造形芸術コース

造形芸術分野の制作、芸術活動を行う仕事を9割が望む一方で、芸術の国際交流に関わる仕事を7割強が望み、芸術表現の実技科目と外国語科目、文化政策などの関連科目を配したコース教育内容と合致している。

2) デザイン工芸コース

自由な発想を活かした制作活動を9割が望む一方で、幅広い分野の仕事への意欲を6割以上が示し、造形技術や表現の実技科目とプロダクトデザイン、材料工学、文化政策などの関連科目を配したコース教育内容と合致している。

3) 文化マネジメントコース

イベント企画・実施の仕事を8割強が望む一方で、芸術の国際交流に関わる仕事を約8割が望み、アートマネジメントや文化政策と外国語科目や芸術理解などの関連科目を配したコース教育内容と合致している。

4) デザイン情報コース

自由な発想を活かした造形制作の仕事を9割が望む一方で、商品開発やデザイン事務所経営の仕事を6割以上が望み、デザイン技術や理論の科目と発想法、経営学、マネジメントなどの関連科目を配したコース教育内容と合致している。

5) 造形建築科学コース

建築やモノの企画・設計の仕事を9割強が望む一方で、造形やデザインの知識を活かした仕事を約9割が望み、建築理論や材料工学科目とデザイン理論や造形実技など

の関連科目を配したコース教育内容に合致している。

(3) カリキュラム構成や運用への魅力度から予想される学生確保

資料7-8(85頁)のとおり、芸術文化学部の特徴的な取り組みを示し、それらが高校生等にどのくらい魅力になるかを調査したアンケート結果から、高い支持率を得ることが判明した。このことから、芸術文化学部において十分な学生の確保が見込まれる。各項目を分析すると以下のようなになる。

1) 学生の学習目的に応じた他コース科目の履修

特徴的な新学部の履修方法に対して、9割の高い支持があり、そのうち約5割が「とても魅力を感じる」と回答している。学生個々の自由な融合教育の理念が、高校生等のニーズと合致している。

2) 芸術やデザインと科学の融合教育

芸術と科学の融合教育に対して5割強の支持を得た。芸術文化学部の特徴の一つであるこの教育理念は、他の美術学部には見られないもので、理解浸透が進めば他大学との棲み分けの要素となり、独自の学生を確保することが可能となる。

3) 芸術やデザインと企画・経営の融合教育

他の美術学部には見られないこの科目構成を約7割が支持し、芸術表現やデザイン技能と経営科目あるいはアートマネジメントと芸術体験を望む高校生等が多数を占めることが判明した。これは多用な芸術文化に関わる展開を志向する表われで、このニーズに合致し学生確保が可能となる。

4) 芸術文化の先端知識・技能を養う総合教育

国内の芸術文化に関わる最先端教育を目指す理念に7割の高い支持があり、高校生等の強い要望が読み取れる。芸術文化が21世紀社会を豊かにすると感じ取る高校生等のニーズに応える総合教育の高支持率から、学生確保が見込める。

5) メンター制度による個別指導

4年間を通したきめ細かな個別指導には6割強の支持があり、教育サービスを求める高校生等の要望に合致している。充実した学生生活を望む志向の高まりをみれば、高校生等には魅力が高い制度である。

6) 外国の大学との交流、交換留学生制度の促進

7割強の高い支持は、海外を視野に入れた活動を望む高さを示している。高校生等にはこれらの制度が魅力の高いものであると判明し、学生確保の重要な要素であると考えられる。

なお、芸術文化学部のベースとなる高岡短期大学は、既に北欧の芸術系大学と学生交流や展示交流の実績を有しており、芸術文化学部ではその拡充を予定している。

X II 卒業後の進路・就職の見通し

1. 産業連関表に基づく想定就職先職業の就業者数の予測

芸術文化学部のコース別に想定される就職先職業と日本の職業別人口予測に関しては資料8-1(86頁)のとおり、2000年から2010年の純増人数と増加率を、職業小分類に従って整理すると、芸術文化学部の就職先職業人口は総合的に大きな伸び率を示している。このことから、芸術文化学部卒業後の職業は十分に確保される。

コースごとの産業連関表に基づく就職先職業人口の予測は以下のとおりである。

(1) 造形芸術コースの就職先職業人口の予測

資料8-2図1(87頁)のとおり、彫刻家、画家、工芸美術家は約4万人からさらに7千人増加すると予測され、約2割の高い増加率を示す。関連するデザイナーなどの大きく増加する職業人口を含めると、今後の日本では、教育者や造形指導者を含めた造形芸術分野の職業に従事する者が増加する社会になると見込める。

(2) デザイン工芸コースの就職先職業人口の予測

資料8-2図2(87頁)のとおり、デザイナーは約18万人からさらに約4万人が増加すると予測され、2割の高い増加率を示す。関連する工芸美術家などの増加職業人口を含めると、今後の日本では工芸産業やプロダクトデザイナーなどのデザイン工芸分野の職業に従事する者が増加する社会になると予想される。

(3) 文化マネジメントコースの就職先職業人口の予測

資料8-1(86項)のとおり、「(98)他に分類されないサービス職業従事者」は約40万人からさらに約25万人が増加すると予測され、6割の極めて高い増加率を示す。なかでも21世紀の社会が文化的サービスを要望することを考えれば、文化マネジメント分野の職業に従事する者が増加する社会になると推測できる。

(4) デザイン情報コースの就職先職業人口の予測

資料8-2図2(87頁)のとおり、デザイナーは約18万人からさらに約4万人が増加すると予測され、2割の高い増加率を示す。あわせて情報処理関連の職業人口が、今後も増加すると予想されることから、デザインセンスと情報処理能力を活かすデザイン情報分野の職業に従事する者が増加すると推測できる。

(5) 造形建築科学コースの就職先職業人口の予測

資料8-2図3(87頁)のとおり、建築技術者は49万人からさらに7万人が増加すると予測され、1割半の増加率を示す。また、幅広いその他の技術者が約8千人から1千人が増加すると予測され、1割弱の増加率を示すことから、造形センスと工学的能力を活かす造形建築科学分野の職業に従事する者が増加すると推測できる。

2. アンケート調査に基づく就職先業種の可能性

新しい芸術文化学部の5コースの卒業生が専門性を活かし易いと考えられる「製造」、

「小売」、「サービス」及び「建設」の4産業分野について、東京・大阪に本社のある上場企業と富山、石川、福井に本社のある大手企業を中心とした企業を対象に、芸術文化学部の新卒者の採用可能性に関するアンケート調査を実施した。

アンケートにおいては、一般的な名称である「プロダクトデザイン」、「ビジュアルデザイン」、「建築環境」、「造形工学」及び「アートマネジメント」という範疇による専攻の学生の採用状況についてその有無を確認した。

「プロダクトデザイン」、「ビジュアルデザイン」、「建築環境」及び「造形工学」の専攻の人材をこれまで採用してきた企業は今後も採用したい旨を挙げており、すべての専攻について、「ビジネスの現場に対する応用力・適応力のある基礎知識を身につけた人材」であれば採用したい、という回答を得ている。教養教育に重点をおき専門知識や技能を横断的に修得する本学部の卒業生は、これからの産業界にフィットしており採用は堅調であると見込まれる。いずれの専攻においても、新卒者の最終学歴は「大学」となっている点についても注目される。

結果の詳細は次に述べるとおりである。

(1) 採用実績

資料8-3表1(88頁)のとおり、回答企業158社のうち、上記の専攻の採用実績のある企業は延べ71社にのぼっている。「アートマネジメント」、「造形芸術」、「工芸プロダクト」の採用実績が少ないのは、資料9-3の『学校基本調査』のデータから明らかなように、比較的新しい学部のため、過去の卒業生の絶対数が少ないためであると考えられる。

(2) 新卒採用者の最終学歴と教育・研究方法への期待

資料8-3表2(88頁)のとおり、採用者の最大の割合を占める教育機関は、いずれの専攻においても「大学」となっており、これらの専攻分野では「短期大学」や「専門学校」は企業にとって採用の対象とはほとんどなっていないことが明らかになっている。

次に、採用実績のある企業が今後、その専攻分野について採用方針をどう考えているかについて見ると、いずれの専攻においても「当面、変える予定はない」が最大であり、不況の長期化や通年採用の拡大にもかかわらず一定のニーズが存在していることが明らかになっている。

資料8-3表3(88頁)及び資料8-4表4(89頁)のとおり、採用実績のある企業が今後、その専攻分野に「重視すべき教育方法」は、専攻によって回答の構成に違いが見られる。

「ビジュアルデザイン」と「建築環境」では『実務的な訓練の機会を増やす教育』が、「造形芸術」と「工芸プロダクト」では『専門的知識や技術を磨く教育』が、「造形工学」は『隣接する他分野との技術を融合した教育』が、それぞれ最大を占める。一方「アートマネジメント」は回答が分散している。

「アートマネジメント」と「工芸プロダクト」以外の専攻では『語学力、文章力、思考力などの基礎能力の徹底的な訓練』が一定の回答割合を占めている点が注目される。

採用実績のある企業が今後、その専攻分野に「今後の研究方向のあり方」をどう捉えているかは資料8-4表5(89頁)のとおりである。「建築環境」と「アートマネジ

メント」以外では『コンピュータグラフィックの活用』が一定の割合を占めており、この面でのニーズがうかがえる。

(3) 今後の採用可能性とその条件

各専攻における学生の採用実績のない企業について、今後の採用可能性に関する回答結果が資料8-4表6(89頁)である。いずれの専攻においても、『ビジネスの現場に対する応用力・適用力があれば採用し易い』の選択肢が最大となっている。また、「造形工学」と「工芸プロダクト」では『専門分野は基本が備わっていれば良く、基礎能力が備わっていた方が採用し易い』の選択肢が相対的に大きな割合となっている。

このことから、狭い専門性にこだわったり、固執したりしない態度が求められていることが明らかであり、需要は益々増加すると思われる、進路は十分確保できると考えられる。

XIII 資格取得について

1. 教育職員免許状の取得について

本学部では、教育職員免許状の資格取得に必要な教科に関する授業科目を取得し、人間発達科学部で開設される教職に関する授業科目の所定単位を取得すると、中学校1種（美術）、高等学校1種（美術）教員免許状が取得できる。

(1) 免許状取得に必要な単位数（教育職員免許法第5条関係）

免許の種類	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目
中学校1種	20	31	8
高等学校1種	20	23	16

(2) 教育職員免許法施行規則第66条の6で規定する科目

施行規則で規定する科目名	単位数	本学部で開講する科目名	単位数
日本国憲法	2	(人間発達科学部で開講)	2
体育	2	健康スポーツⅠ	1
		健康スポーツⅡ	1
外国語コミュニケーション	2	イングリッシュコミュニケーション入門1	1
		イングリッシュコミュニケーション入門2	1
情報機器の操作	2	情報処理入門	2

(3) 教職に関する科目の単位の修得方法（施行規則第6条）

教職に関する科目については、人間発達科学部で開設する科目を履修する。

なお、中学校教諭（美術）及び高等学校教諭（美術）の免許状については、教職に関する科目の欄に定める単位数のうちその半数までの単位は、芸術文化学部で開講する教科に関する科目について修得することができる。

（免許法別表第1（第5条関係）備考9）

(4) 教科に関する科目の単位の修得方法（施行規則第3条）

中学校教諭（美術）及び高等学校教諭（美術）の教科に関する科目は、芸術文化学部で開講する専門教育科目を履修することにより、修得することができる。

2. 建築士の受験資格取得について

造形建築科学コース建築系の教育課程において所定の科目を履修すると、一級建築士受験に際して、卒業後の実務経験年数が軽減される。この受験資格を取得しようとするものは、下の表に沿って必要な授業科目を選択、履修する。

建築士法施行規則第11条第3項に掲げる授業科目等との対比表

規則上の授業科目	必選別	単位数	対応する授業科目
建築計画	選必	2	建築計画
	選必	2	建築論
	選必	2	住居論
	選必	2	建築史
	選必	2	近・現代建築意匠
環境工学	選必	2	環境工学
	選必	2	環境工学設計演習
	選必	2	人間工学概論
建築設備	必	2	建築設備
構造力学	必	2	材料力学
	必	2	構造力学1（静定および不静定の基礎）
	選	2	構造力学2（不静定構造および構造計画）
建築一般構造	必	2	木質構造
建築材料	選必	2	建築材料
	選必	2	造形金属材料入門
	選必	2	造形材料（金属材料）
	選必	2	有機材料入門
	選必	2	造形材料（有機材料）
	選必	2	木質材料入門
	選必	2	造形材料（木質材料）
建築施工	必	2	建築生産
建築積算	必	2	木質構造実習（木造軸組住宅・建築積算を含む）
建築法規	必	2	建築法規
建築材料実験	選必	2	造形工学基礎実験
	選必	2	造形材料実験（金属材料）
	選必	2	造形材料実験（表面処理）
	選必	2	造形材料実験（有機材料）
	選必	2	造形材料実験（木質材料）
設計製図	必	2	空間デザインC（戸建住宅）
	必	2	空間デザインD（集合住宅）
	必	2	空間デザインE（非木造の特殊建築物）

3. 学芸員の資格取得について

本学部では、博物館法が定める所要単位を本学部及び他学部で開講されている科目と合わせて修得すると、博物館や美術館などで勤務し、資料の収集、保管、展示、調査、研究などに従事する学芸員の資格を得ることができる。

(1) 資格取得に必要な単位数(博物館法施行規則第1条関係)

科 目	単 位	本学で開講される授業科目	単 位
生涯学習概論	1	生涯学習概論	2
博物館概論	2	博物館概論又は博物館学Ⅰ又は文書学Ⅰ	2
博物館資料論	2	博物館学Ⅱ又は文書学Ⅱ	2
博物館経営論	1	博物館学Ⅲ又は文書学Ⅲ	2
博物館情報論	1		
視聴覚教育メディア論	1	視聴覚教育メディア論	2
教育学概論	1	教育哲学	2
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	1
		博物館実習Ⅱ	2

(2) 指導上必要と認められる科目

「文化史(日本の社会と文化)」、「美術史」、「考古学(考古学概論)」、「民俗学」、「自然科学史」、「物理学」、「化学」、「生物学」、「地学」から最低2分野の授業科目を修得する。

なお、教養科目として取得した授業科目は含まれない。

富山大学芸術文化学部の概要を記載した書類

事項		記入欄							備考			
設置者	国立大学法人 富山大学											
学部の名称	芸術文化学部											
学部の位置	高岡市二上町 180 番地											
学部の目的	芸術を極めることに主眼を置く教育・研究だけではなく、むしろ芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的に行動する意欲的な人材の育成と、地域の幅広い伝統産業を継承し、いっそう発展させることのできる人材の育成を目指し、意欲的な教育・研究を展開しようとするものである。											
申請学部等の名称等	申請学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設の時期及び開設年次	所在地	・平成 18 年 4 月から高岡短期大学産業造形学科、産業デザイン学科、地域ビジネス学科の学生募集を停止(△ 200)し、在学生の卒業を待って廃止 ・平成 20 年 4 月から高岡短期大学専攻科の学生募集を停止(△ 25)し、在学生の修了を待って廃止			
	芸術文化学部 芸術文化学科	4 年	115 人		460 人	学士 (芸術文化)	平成 17 年 10 月 1 日 開設 第 1 年次 (平成 18 年 4 月 1 日 学生受入開始)	高岡市二上町 180 番地				
	計		115		460							
教員組の概要	学部、学科その他の名称				教授 専任	助教授 専任	講師 専任	講師 兼任	計 専任 兼任	助手 専任		
	申請分	芸術文化学部 芸術文化学科				27 (25)	14 (11)	7 (6)	2 (2)	48 (42)	2 (2)	8 (8)
		計				27 (25)	14 (11)	7 (6)	2 (2)	48 (42)	2 (2)	8 (8)
	既設	高岡短期大学 産業造形学科				11	5	3	8	19	8	4
		産業デザイン学科				7	1	1	4	9	4	2
地域ビジネス学科				11	5	3	6	19	6	0		
小計				29	11	7	18	47	18	6		
概要	富山大学											
	人文学部											
	人文学科				9	11	2	15	22	15	0	
	国際文化学科				8	10	1	17	19	17	0	
言語文化学科				16	13	0	18	29	18	0		
計				33	34	3	50	70	50	0		

教育学部

学校教育教員養成課程

生涯教育課程

情報教育課程

計

46

35

4

33

85

33

1

46

35

4

33

85

33

1

経済学部

経済学科

経営学科

経営法学科

計

16

10

0

2

26

2

3

9

9

6

5

24

5

3

12

6

4

4

22

4

3

37

25

10

11

72

11

9

理学部

数学科

物理学科

化学科

生物学科

地球科学科

生物圏環境科学科

計

8

3

2

1

13

1

1

7

4

0

1

11

1

2

6

5

0

1

11

1

3

6

4

1

2

11

2

3

7

3

0

4

10

4

2

6

3

0

4

9

4

3

40

22

3

13

65

13

14

工学部

電気電子システム工学科

知能情報工学科

機械知能システム工学科

物質生命システム工学科

計

12

6

2

3

20

3

6

9

5

4

2

18

2

2

9

10

2

5

21

5

6

21

16

2

9

39

9

9

51

37

10

19

98

19

23

小計

207

153

30

126

390

126

47

富山医科薬科大学

医学部

医学科

看護学科

計

29

26

4

1

59

1

67

7

6

2

0

15

0

11

36

32

6

1

74

1

78

薬学部

薬科学科

一般教育等

小計

11

13

3

0

27

0

18

7

11

0

39

18

39

0

54

56

9

40

119

40

96

合計

290

220

46

184

556

184

149

職 種

専 任

兼 任

計

事務職員

30 (30)

0 (0)

30 (30)

技術職員

4 (4)

0 (0)

4 (4)

図書館専門職員

2 (2)

0 (0)

2 (2)

その他の職員

2 (2)

0 (0)

2 (2)

計

38 (38)

0 (0)

38 (38)

教
員
申
請
分
外

の 職 員 設 の 分 概 要	事務職員		人	人	人	
	既	高岡短期大学	30	0	30	
	設	富山大学	171	0	171	
		富山医科薬科大学	135	0	135	
		計	336	0	336	
	技術職員					
		高岡短期大学	4	0	4	
		富山大学	42	0	42	
		富山医科薬科大学	51	0	51	
		計	97	0	97	
図書館専門職員						
	高岡短期大学	2	0	2		
	富山大学	13	0	13		
	富山医科薬科大学	11	0	11		
	計	26	0	26		
その他の職員						
	高岡短期大学	2	0	2		
	富山大学	7	0	7		
	富山医科薬科大学	425	0	425		
	計	434	0	434		
合計		893	0	893		
校 地 等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用等	計	
	校舎敷地	69,432 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	69,432 m ² (0 m ²)	
	運動場用地	24,160 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	24,160 m ² (0 m ²)	
	小計	93,592 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	93,592 m ² (0 m ²)	
	その他	31 m ² (31 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	31 m ² (31 m ²)	
	合計	93,623 m ² (31 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	93,623 m ² (31 m ²)	
校 舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用等	計		
	16,078 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	16,078 m ² (0 m ²)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	8 室	22 室	40 室	2 室 (補助職員 0人)	1 室 (補助職員 0人)	
専任教員研究室		申請学部等の名称 芸術文化学部 芸術文化学科		室数 44 室		
図 書 ・ 設 備	申請学部等の名称	図書〔外国書〕冊	学術雑誌〔外国書〕種	視聴覚資料点	機械・器具点	標本点
	芸術文化学部	75,870 [14,390] (68,670 [12,590])	940 [240] (900 [230])	2,150 (1,750)	136 (136)	0 (0)
	計	75,870 [14,390] (68,670 [12,590])	940 [240] (900 [230])	2,150 (1,750)	136 (136)	0 (0)
図書館		面積	閲覧座席数	収納可能冊数		
		966 m ²	86 席	58,800 冊		
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			
		1,469 m ²	テニスコート 6面 4,147 m ²	多目的グラウンド 15,680 m ²		

経費の見積り及び維持方法の概要	国費							
	大学の名称	高岡短期大学						
既設大学等	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人	倍	昭和58年度	高岡市二上町180番地
	産業造形学科	2	50	0	100	1.07		
	産業デザイン学科	2	25	0	50	1.03		
	地域ビジネス学科	2	125	0	250	1.08		
	計		200	0	400	1.07		
状況	大学の名称	富山大学						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	定員超過率	開設年度	所在地
	人文学部						昭和54年度	富山市五福3190番地
	人文学科	4	60	3 軟 10	240	1.04		
	国際文化学科	4	50		200	1.04		
	言語文化学科	4	75		300	1.03		
	計		185	10	760	1.03		
	教育学部							
	学校教育教員養成課程	4	100		400	1.07		
	生涯教育課程	4	40		160	1.04		
	情報教育課程	4	30		120	1.04		
	計		170		680	1.06		
	経済学部 [夜間コース併設]							
	経済学科	4	155[20]	3 軟 10	620[80]	1.21		
	経営学科	4	135[20]		540[80]	1.08		
	経営法学科	4	115[20]		460[80]	1.05		
	計		405[60]	10	1,640 [240]	1.06		
	理学部							
	数学科	4	50	3 軟 10	200	1.04		
	物理学科	4	40		160	1.08		
	化学科	4	35		140	1.12		
	生物学科	4	35		140	1.09		
	地球科学科	4	40		160	1.02		
	生物圏環境科学科	4	30		120	1.05		
	計		230	10	940	1.06		

工学部													
電気電子システム工学科	4	88	3 年	352	1.06								
知能情報工学科	4	78		312	1.05								
機械知能システム工学科	4	88		352	1.07								
物質生命システム工学科	4	151		604	1.09								
計		405	30	1,680	1.07								
小 計		1,395	60	5,700									
大学の名称		富山医科薬科大学											
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	定員超過率	開設年度	所在地					
		年	人	年次人	人	倍		富山市杉谷 2630					
医学部				3 年			昭和 50 年度						
医学科	6	90	5	560	1.00								
看護学科	4	60	10	260	1.00								
計		150	15	820	1.00								
薬学部													
薬科学科	4	105		420	1.02								
計		105		420	1.02								
小 計		255	15	1,240	1.01								
附属施設の概要		新設分	なし										
		既設分	大学開放センター 高岡市二上町 180 番地 保健管理センター 同上										
授業科目の概要	授業科目の名称		配当年次		単位数又は時間数			専任教員配置					
					必修	選択	自由	教授	助教授	講師	助手		
	(芸術文化学部 芸術文化学科)												
	教養教育科目 (リテラシー科目)												
	イングリッシュ・コミュニケーション入門 1		1		1				1				卒業要件 教養教育科目 (17科目) 21 単位以上 (立山大学への講義)
	イングリッシュ・コミュニケーション入門 2		1		1				★				2 単位以上
	イングリッシュ・コミュニケーション中級 1		2			1			★				(幅広い教養科目)
	イングリッシュ・コミュニケーション中級 2		2			1		★	★				26 単位以上
	英文表現・理解 A-1		1		2			★		1			計 50 単位以上
	英文表現・理解 A-2		1		2			1		★			
	英文表現・理解 B-1		2			2		★					専門教育科目
	英文表現・理解 B-2		2			2					★		(学部共通科目)
インターネット英語		2			2		★				20 単位以上		

資格の英語(TOEIC/英検)	2		2			★	(基礎科目)
中国語会話Ⅰ	1		2	1			20 単位以上
中国語会話Ⅱ	1		2	★			(発展科目)
中国語作文Ⅰ	1		2	★			20 単位以上
中国語作文Ⅱ	1		2	★			(卒業研究・制作)
中国語読解	1		2	★			8 単位以上
情報処理入門	1	2		★	1	★	計 60 単位以上
コンピュータの基礎	1		2	★	★	★	
コンピュータによるデザイン入門	1		2	★	★	1	合計 130 単位以上
EUC による情報処理入門	1		2		★	★	
健康スポーツⅠ	1	1		1			1
健康スポーツⅡ	1	1		★			★
基礎ゼミ	1	2		★	★	★	*本学部は、1 学
プロジェクトゼミ	1	2		★	★	★	科 5 コース制であ
(立山マルチヴァース)							り、同一授業科目
感性をはぐくむ	1・2・3		2	★			がコースにより「必
富山学ーわたしの富山	1・2・3		2	★			修」や「選択必修」
心(こころ)、身体(からだ)、そして生命(いのち)	1・2・3		2	★			又は「選択」とな
(幅広い教養)							っているため、履
ライフスタイル	1		2	★			修方法については
暮らしとインテリア	4		2	★			別添資料参照。
生活と環境	2		2		★		
生活の中のデザイン	1		2	★			
ヒト・身体(からだ)・道具	3		2			★	
人と金属とものづくり	4		2	★			
人と道具	2		2	★			
ホテライの世界	2		2	★	★		
身近な医学	4		2				
地域と文化	1		2			★	
建築と文化	1		2	★			
芸術の社会学	3		2	★			
文化と政策	3		2	★			
文化と観光	1		2	★			
日本美術の見かた	2		2	★			
西洋絵画の見かた	1		2		★		
西洋演劇の歴史	2		2			★	
デザイン工芸概論	1		2		★		
デザインの世界	1		2	★			
中国の演劇	4		2				
中国の言語と文化	2		2	★			
メディアアートの楽しみ	1		2			★	
金属と装飾	4		2	★	★		
異文化理解文献研究(英語)	3		2	★			
異文化理解文献研究(中国語)	3		2	★			
まちづくり	2		2	★			
ゼンガ-	3		2				

アメリカ社会文化論	4	2				
経済の仕組み	3	2				
経営の仕組み	3	2				
国際ビジネス	3	2				
生産管理	3	2				
会計の仕組み	3	2				
管理会計	3	2				
インターネットの仕組み	1	2			1	
情報の読み方	2	2				
世界の英語	2	2	★			
建築とリサイクル	2	2	★			
技術と社会	1	2	★			
人と空間	2	2	★			
人と木のある暮らし	1	2				★
物質と科学	1	2		★		
力と形	1	2	★			
形の発想	1	2		★		
造形図法	1	2		★		
デジタルテクノロジーの世界	1	2		★		
造形のための数学の入門	1	2	★			
造形のための物理入門	1	2		★		
造形のための化学入門	1	2		★		
美術の楽しみ(色で表現する)	2	2	★	★		
美術の楽しみ(形で表現する)	3	2	★	★		
工作の楽しみ	2	2		★		
水泳・水中運動	2	2	★			
コミュニケーションとデザイン概論	3	2	★			
展示・プレゼンテーション英語	4	2	★			
専門教育科目						
(学部共通科目)						
(芸術の理解)						
美学	2	2			1	
日本美術史	2	2	★	★		
西洋美術史	2	2		★		
伝統文化論	2	2				★
音楽文化論	2	2				★
近代デザイン工芸論	1	2			1	
意匠と文様	2	2		★		
インタラクティブアート入門	1	2				1
(芸術文化と自然・社会との関係の理解)						
建築史	2	2	★			
工芸史	2	2		★		
デザイン史	2	2		★		
高齢化社会の情報文化	1	2			1	
デジタルアート基礎	1	2				★
電子ビジネス概論	2	2				
マーケティング	1	2		1		
社会環境と価値観	2	2	★			

社会調査法	2	2	★		
原価管理	2	2			
光と色彩の科学	2	2	★		★
金属工芸技術史概論	2	2	1		
働態学	2	2			★
工芸・デザイン材料	1	2	★	★	
(造形芸術・デザインの技法)					
アイデア発想法	1	2	★		
デザインプレゼンテーション	2	2	★		★
基礎造形表現(平面)	1	2		★	
基礎造形表現(立体)	1	2		★	
基礎デザイン演習	1	2	★		
ビジュアル基礎演習	1	2			★
生活用具制作	2	2	★	★	★
ものつくりのための描写演習	1	2	★		
デザイン工芸のための機械操作	1	2	★	★	
UNIXとプログラミングの基礎1	2	2	1		
UNIXとプログラミングの基礎2	2	2		★	
(基幹科目)					
(情報処理関連)					
コンピュータによるデザイン演習	2	2			★
Web 基礎演習	2	2		★	
情報ネットワーク	3	2		★	★
デザインとユビキタス社会	3	2			
CAD を用いた家具設計の基礎	2	2	★		
デザイン工芸のための CAD 演習	3	2	★		
(造形関連)					
絵画論	2	2		★	
絵画基礎	1	2	★	★	
造形基礎演習(木彫)	2	2	★		
抽象立体表現	2	2	★		
彫刻基礎演習(塑造)	1	2	★		
絵画技法・材料	2	2	★	★	
漆工技法・材料	2	2		★	
インタラクティブアート基礎演習	2	2			★
(工芸関連)					
回転体制作基礎演習	2	2	★		
素地加工法	3	2		1	
鑄金工芸基礎演習	1	2	★		
複合鍛金	2	2	1		
クラフトデザイン	2	2			1
工芸制作入門	1	2		★	★
造形発想の手法	2	2	★		
金工基礎演習	1	2	★		
金工制作法	3	2	★		
漆工基礎演習	1	2	★		
家具構法	3	2	1		
木工基礎演習	1	2			★

木工具演習	2	2	★			
成形合板演習	3	2			★	
蠟型鑄造	2	2	★			
漆素地制作	2	2	★		★	
漆塗装	2	2		★		
漆用具製作	2	2		★		1
クラフト製品の量産	3	2	★			★
木工機械加工実習	2	2	★			1
コース共同課題	2	2	★	★		
(デザイン関連)						
シボ・ル・デザイン演習	1	2	★			
デザインマネジメント概論	2	2	★			
デザインマネジメント演習	2	2	★			
ビジュアルコミュニケーション演習 A	2	2	★			1
パッケージデザイン論	3	2	★			
デザインリサーチ	2	2	1			
デザイン調査法	3	2	★			
メディア・プレゼンテーション	3	2	★			
シルクスクリーン演習	1	2	★			
デザイン製図演習	2	2		★		
製品評価法	3	2	★			
カーフェスデザイン	2	2		★		
(建築関連)						
住居論	1	2	★	★		
建築計画	2	2	1			
近・現代建築意匠	2	2	★			
構造力学 1	2	2	1			
材料力学	2	2	★			
環境工学	3	2		1		
環境工学設計演習	3	2		★		
人間工学概論	1	2			1	
人間工学測定法	2	2			★	★
建築製図	1	2	★			1
(材料関連)						
造形金属材料入門	2	2		★		
造形工学基礎	2	2	★	★		
技術開発論	3	2	★			
金属材料加工法	2	2		★		
木質材料入門	1	2	★			
有機材料入門	2	2		1		
造形工学基礎実験	2	2	★	★		1
(芸術文化論関連)						
現代美術論	2	2		★		
現代工芸論	3	2		★		
伝統芸能論	2	2			1	
地域産業論	3	2				
文化と行政	2	2	★			
国際観光論	3	2	1			
観光英語	2	2	★			

アートマネジメント総論	2	2	1			
博物館概論	3	2	★			
情報造形論	3	2	★			
保存と修復	3	2	★			
(展開科目)						
(情報処理関連)						
インタラクティブアートプログラミング基礎	2	2		★		
インタラクティブアートプログラミング応用	3	2		★		
インタラクティブアートプログラミング総合	3	2		★		
図形情報実習	3	2		★		1
デジタルアート技術論	3	2		1		
(造形関連)						
インタラクティブアート応用演習	3	2			★	
絵画A	2	2	1			
絵画B	3	2	★			
絵画C	4	2	★			
環境絵画A	2	2		1		
環境絵画B	2	2		★		
環境造形A(塑造)	2	2	★			
環境造形B(木材)	3	2	★	★		
環境造形C(金属)	3	2	★			
金属立体造形	4	2	★			
彫刻実習I(木彫)	3	2	1			
彫刻実習II(木彫)	4	2	★			
彫刻実習A(塑造)	3	2	1			
彫刻実習B(塑造)	4	2	★			
インタラクティブアート総合実習	4	2			★	
(工芸関連)						
工芸プロダクトデザイン	3	2	★	★		
原型制作	3	2	1			
込型鋳造	3	2	★			
ジュエリー制作	3	2		1		1
石膏鋳造	3	2		★		
鍛金	2	2	★			
生型鋳造	2	2		★		
蒔絵	3	2	★	★		
螺鈿	3	2	1			
漆造形表現	3	2		★		
食器制作	4	2		★		
変わり塗り	3	2		1		★
家具デザイン制作	3	2	1			★
工芸プロダクト制作	3	2	★		★	
(デザイン関連)						
インフォメーションデザイン演習	2	2	★			
インタフェースデザイン演習	4	2	1			
広告デザイン演習	3	2			★	
ブランドデザイン	4	2				

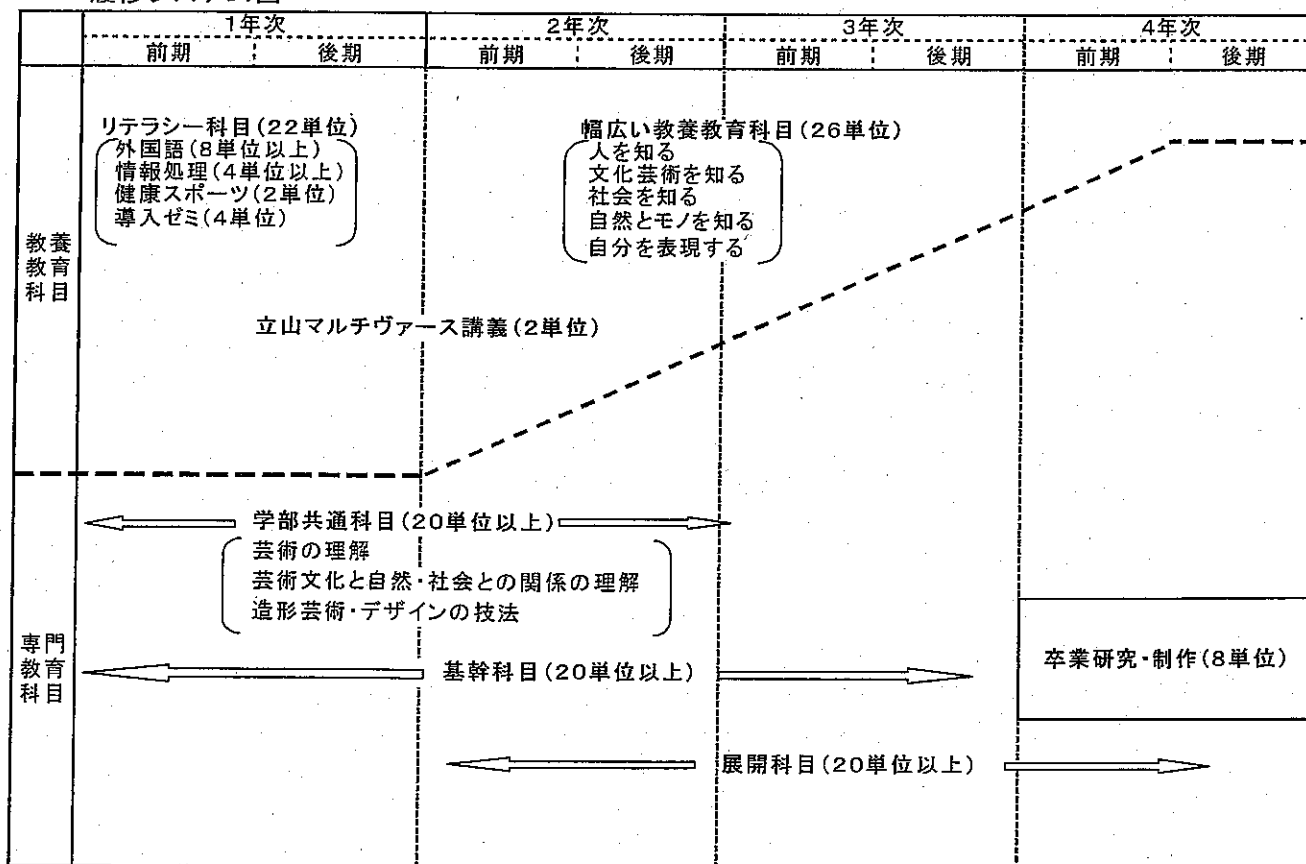
サインデザイン演習	3	2	★			
プロダクトデザイン	2	2	★	1		
事業計画立案演習	3	2	1			
ビジュアルコミュニケーション演習 B	3	2	1			★
ビジュアルコミュニケーション演習 C	4	2	★			★
形態発想実習	2	2		★		
プロダクトデザイン実習 A	3	2	★			
プロダクトデザイン実習 B	3	2		★		
(建築関連)						
建築論	3	2	1			
建築生産	2	2		★		
建築設備	3	2		★		
建築法規	4	2	★			
木質構造	3	2	★			
建築材料	3	2		★		
構造力学 2	4	2	★			
空間デザイン A(シェルター)	2	2	★			
空間デザイン B(家具)	2	2	★			
空間デザイン C(戸建住宅)	2	2	★			★
空間デザイン D(集合住宅)	3	2	★			
空間デザイン E(非木造の特殊建築物)	3	2	★			
空間デザイン F(インテリア)	4	2	★			
人間工学設計法	3	2			★	
木質構造実習(木造軸組住宅)	3	2	★			
(材料関連)						
造形材料(金属材料)	3	2		1		
造形材料(有機材料)	2	2		★		
造形材料(表面処理)	3	2	1			
造形材料(木質材料)	2	2	1			
造形金属新素材	4	2	★			
塗料化学	3	2		★		
造形材料実験(金属材料)	3	2		★		
造形材料実験(表面処理)	3	2	★			
造形材料実験(木質材料)	3	2	★			
造形材料実験(有機材料)	3	2		★		
(芸術文化論関連)						
アートマネジメント論(公演芸術)	2	2	1			
マーケティング・マネジメント	2	2	★			
鑑賞と批評(日本美術)	3	2	1			
鑑賞と批評(伝統芸能)	3	2			★	
環境芸術論	3	2		★		
環境美学	3	2		★		
企業文化論	3	2	★			
プロデュースシステム	3	2	★			
NPO 企画演習	2	2	★			
パブリックアート論	2	2	★			
都市計画と文化	3	2	★			
伝統思想論	3	2	★			

地域と文化事業マシメント	3		2		★				
文化施設計画論	3		2		★				
日本美術史料研究	3		2		★				
伝統文化資料研究	3		2				★		
(卒業研究・制作)									
卒業研究・制作	4	8			★	★	★		

芸術文化学部の卒業要件単位

区分・分野		コース	造形芸術 コース	デザインエ 芸コース	文化マネジメ ントコース	デザイン 情報コース	造形建 築科学 コース	計	
教養 教育 科目	リテラシー 科目	外国語	8単位以上					22単位 以上	50 単位
		情報処理	4単位以上						
		健康スポーツ	2単位						
		導入ゼミ	4単位						
	立山マルチヴァース講義		2単位以上						
幅広い教養 教育科目	幅広い教養 教育科目	人を知る	26単位以上						
		文化芸術を知る							
		社会を知る							
		自然とモノを知る							
		自分を表現する							
専門 教育 科目	学部共通 科目	芸術の理解	20単位					80 単位	
		芸術文化と自然・社 会との関係の理解							
		造形芸術・デザイン の技法							
	基幹科目		20単位以上						
	展開科目		20単位以上						
卒業研究・制作		8単位							
合計		130単位							

履修システム図



芸術文化学部カリキュラム

1. 教養教育科目（リテラシー科目）

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン コース	文化 マネジメント コース	デザイン 情報 コース	造形 建築 科学 コース	分野 毎の 要件 単位
外国語	イングリッシュ・コミュニケーション入門1	実技	1	1	◎	◎	◎	◎	◎	8 単 位 以 上
	イングリッシュ・コミュニケーション入門2	実技	1	1	◎	◎	◎	◎	◎	
	イングリッシュ・コミュニケーション中級1	実技	1	2						
	イングリッシュ・コミュニケーション中級2	実技	1	2						
	英文表現・理解A-1	演習	2	1	◎	◎	◎	◎	◎	
	英文表現・理解A-2	演習	2	1	◎	◎	◎	◎	◎	
	英文表現・理解B-1	演習	2	2						
	英文表現・理解B-2	演習	2	2						
	インターネット英語	講演	2	2						
	資格の英語(TOEIC/英検)	演習	2	2						
	中国語会話Ⅰ	講演	2	1						
	中国語会話Ⅱ	講演	2	1						
	中国語作文Ⅰ	講演	2	1						
	中国語作文Ⅱ	講演	2	1						
中国語読解	講演	2	1							
情報処理	情報処理入門	講演	2	1	◎	◎	◎	◎	◎	4 単 位 以 上
	コンピュータの基礎	講演	2	1				○	2 単 位	
	コンピュータによるデザイン入門	講演	2	1	◎	◎	◎	○		
	EUCによる情報処理入門	講演	2	1				○		
健康スポーツ	健康スポーツⅠ	実技	1	1	◎	◎	◎	◎	◎	2 単 位
	健康スポーツⅡ	実技	1	1	◎	◎	◎	◎	◎	
導入ゼミ	基礎ゼミ	演習	2	1	◎	◎	◎	◎	◎	4 単 位
	プロジェクトゼミ	実技	2	1	◎	◎	◎	◎	◎	
卒業要件単位数		必修		16	16	16	16	14	/	
		選必		0	0	0	0	2		
		選択		6以上	6以上	6以上	6以上	6以上		
		計		22以上	22以上	22以上	22以上	22以上		

備考

- ・分野毎の要件単位は、各分野から修得すべき単位数を示す。
- ・◎は必修科目、○は選択必修科目、空欄は選択科目を示す。

2. 教養教育科目（立山マルチヴァース講義）

科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン 工学	文化マ ネジメ ント コース	デザ イン 情報 コース	造 形 建 築 科 学 コース
感性をはぐくむ	講義	2	1~3	○	○	○	○	○
富山学－わたしの富山	講義	2	1~3	○	○	○	○	○
心(こころ), 身体(からだ), そして生命(いのち)	講義	2	1~3	○	○	○	○	○
卒業要件単位数	必修			0	0	0	0	0
	選必			2	2	2	2	2
	選択			0	0	0	0	0
	計			2以上	2以上	2以上	2以上	2以上

備考

・○は選択必修科目を示す。

3. 教養教育科目（幅広い教養教育科目）

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン 工学 コース	文化 マネジメント コース	デザイン 情報 コース	造形 建築 科学 コース	分野の 選択 必修 単位
人を知る	ライフスタイル	講義	2	1		○	○			2 単 位
	暮らしとインテリア	講義	2	4	○		○		○	
	生活と環境	講義	2	2	○			○	○	
	生活の中のデザイン	講義	2	1	○	○		○	○	
	ヒト・身体(からだ)・道具	講義	2	3		○			○	
	人と金属とものづくり	講義	2	4						
	人と道具	講義	2	2						
	ボランティアの世界	講演	2	2			○			
	身近な医学	講義	2	4						
文化芸術を知る	地域と文化	講義	2	1	○	○	○		○	2 単 位
	建築と文化	講義	2	1					○	
	芸術の社会学	講義	2	3			○			
	文化と政策	講義	2	3	○		○			
	文化と観光	講義	2	1	○		○			
	日本美術の見かた	講義	2	2			○			
	西洋絵画の見かた	講義	2	1			○			
	西洋演劇の歴史	講義	2	2			○			
	デザイン工芸概論	講義	2	1		○				
	デザインの世界	講義	2	1				○		
	中国の演劇	講義	2	4						
	中国の言語と文化	講義	2	2	○					
	メディアアートの楽しみ	講義	2	1			○	○		
	金属と装飾	講義	2	4						
	異文化理解文献研究(英語)	講演	2	3						
	異文化理解文献研究(中国語)	講演	2	3						
社会を知る	まちづくり	講義	2	2	○		○		○	2 単 位
	ジェンダー	講義	2	3			○			
	アメリカ社会文化論	講義	2	4						
	経済の仕組み	講義	2	3						
	経営の仕組み	講義	2	3			○			
	国際ビジネス	講義	2	3						
	生産管理	講義	2	3					○	
	会計の仕組み	講義	2	3			○			

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン工芸 コース	文化マネジメント コース	デザイン情報 コース	造形建築科学 コース	分野の選択必修単位
社会を知る	管理会計	講義	2	3						
	インターネットの仕組み	講演	2	1			○			
	情報の読み方	講義	2	2	○	○	○	○		
	世界の英語	講義	2	2	○	○				
自然とモノを知る	建築とリサイクル	講義	2	2						2 単 位
	技術と社会	講義	2	1	○		○		○	
	人と空間	講義	2	2	○	○	○		○	
	人と木のある暮らし	講義	2	1						
	物質と科学	講義	2	1	○				○	
	力と形	講義	2	1					○	
	形の発想	講義	2	1				○		
	造形図法	講義	2	1	○	○			○	
	デジタルテクノロジーの世界	講義	2	1			○	○		
	造形のための数学の入門	講義	2	1					○	
	造形のための物理入門	講義	2	1					○	
造形のための化学入門	講義	2	1					○		
自分を表現する	美術の楽しみ(色で表現する)	講義	2	2		○	○			2 単 位
	美術の楽しみ(形で表現する)	講義	2	3					○	
	工作の楽しみ	講義	2	2						
	水泳・水中運動	演習	2	2	○	○				
	コミュニケーションとデザイン概論	講義	2	3	○		○	○		
	展示・プレゼンテーション英語	講演	2	4	○		○	○	○	
卒業要件単位数	必修				0	0	0	0	0	
	選必				10	10	10	10	10	
	選択				16	16	16	16	16	
	計				26	26	26	26	26	

備考

- ・分野毎の選択必修単位は、各分野から修得すべき単位数を示す。
- ・◎は必修科目、○は選択必修科目、空欄は選択科目を示す。

4. 専門教育科目 (学部共通科目)

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン工芸 コース	ト 文化 コース マネジメン	デザイン 情報 コース	造形建築 科学 コース
芸術の理解	美学	講義	2	2	◎		◎		
	日本美術史	講義	2	2	○	○	◎		○
	西洋美術史	講義	2	2	○		○		○
	伝統文化論	講義	2	2	○	○	○		○
	音楽文化論	講義	2	2			○		
	近代デザイン工芸論	講義	2	2		○	○		○
	意匠と文様	講義	2	2			○		
	インタラクティブアート入門	講義	2	1				◎	
芸術文化と自然・社会との関係の理解	建築史	講義	2	2	○		○		○
	工芸史	講義	2	2		○	○		
	デザイン史	講義	2	2		○	○		○
	高齢化社会の情報文化	講義	2	1					
	メディアアート基礎	講義	2	1					
	電子ビジネス概論	講義	2	2					
	マーケティング	講義	2	1			◎	○	○
	社会環境と価値観	講義	2	2			○	○	○
	社会調査法	演習	2	2			○		
	原価管理	講義	2	2			○		
	光と色彩の科学	講義	2	2	○				○
	金属工芸技術史概論	講義	2	2			○		
	動態学	講義	2	2				○	○
	工芸・デザイン材料	講義	2	1	○	○			○
造形芸術・デザインの技法	アイデア発想法	演習	2	1		○		◎	
	デザインプレゼンテーション	演習	2	2	○	○	○	◎	○
	基礎造形表現(平面)	演習	2	1	○	○	○		○
	基礎造形表現(立体)	演習	2	1	○	○	○		○
	基礎デザイン演習	演習	2	1					○
	ビジュアル基礎演習	演習	2	1					
	生活用具制作	演習	2	2		○			
	ものつくりのための描写演習	演習	2	1					
	デザイン工芸のための機械操作	演習	2	1			○		
	UNIXとプログラミングの基礎1	演習	2	2				◎	
UNIXとプログラミングの基礎2	演習	2	2						
卒業要件単位数	必修			2	0	6	8	0	
	選必			8	10	4	2	10	
	選択			10以上	10以上	10以上	10以上	10以上	
	計			20以上	20以上	20以上	20以上	20以上	

備考

・◎は必修科目、○は選択必修科目、空欄は選択科目を示す。

5. 専門教育科目（基幹科目）

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン 工学	文化マ ネジメ ント コース	デザ イン 情 報 コース	造 形 建 築 科 学 コース
情報処理 関連	コンピュータによるデザイン演習	演習	2	2					
	Web基礎演習	演習	2	2			○	◎	
	情報ネットワーク	演習	2	3					
	デザインとユビキタス社会	演習	2	3	○				
	CADを用いた家具設計の基礎	演習	2	2		○			○
	デザイン工学のためのCAD演習	演習	2	3	○				
造形 関連	絵画論	講義	2	2	○		○		
	絵画基礎	演習	2	1	○		○		
	造形基礎演習(木彫)	演習	2	2	○				
	抽象立体表現	演習	2	2	○				
	彫刻基礎演習(塑造)	演習	2	1	○		○		
	絵画技法・材料	講義	2	2			○		
	漆工技法・材料	講義	2	2					
	インタラクティブアート基礎演習	演習	2	2	○				
工芸 関連	回転体制作基礎演習	演習	2	2					
	素地加工法	演習	2	3	○				
	鑄金工芸基礎演習	演習	2	1	○				
	複合鍛金	演習	2	2	○				
	クラフト・デザイン	演習	2	2			○		
	工芸制作入門	演習	2	1	○		○		
	造形発想の手法	講義	2	2	○				
	金工基礎演習	演習	2	1		○	○		
	金工制作法	講義	2	3					
	漆工基礎演習	演習	2	1		○	○		
	家具構法	講義	2	3					○
	木工基礎演習	演習	2	1	○	○			
	木工具演習	演習	2	2	○				
	成形合板演習	演習	2	3					
	蠟型鑄造	実習	2	2					
	漆素地制作	実習	2	2					
	漆塗装	実習	2	2					
	漆用具製作	実習	2	2					
	クラフト製品の量産	実習	2	3					
	木工機械加工実習	実習	2	2					○
	コース共同課題	実習	2	2			◎		

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン工学 コース	文化マネジメント コース	デザイン情報 コース	造形建築科学 コース
デザイン関連	シンボルデザイン演習	演習	2	1				○	
	デザインマネジメント概論	講義	2	2		○	○		○
	デザインマネジメント演習	演習	2	2				○	
	ビジュアルコミュニケーション演習A	演習	2	2	○			◎	
	パッケージデザイン論	講義	2	3				○	
	デザインリサーチ	実習	2	2					○
	デザイン調査法	講義	2	3				○	
	メディア・プレゼンテーション	演習	2	3	○		○	◎	
	シルクスクリーン演習	演習	2	1	○				
	デザイン製図演習	演習	2	2					○
	製品評価法	講義	2	3					○
	サーフェスデザイン	実習	2	2					
建築関連	住居論	講義	2	1					○
	建築計画	講義	2	2			○		○
	近・現代建築意匠	講義	2	2					○
	構造力学1	講義	2	2					○
	材料力学	講義	2	2					○
	環境工学	講義	2	3					○
	環境工学設計演習	演習	2	3					○
	人間工学概論	講義	2	1		○	○	○	○
	人間工学測定法	実習	2	2		○			○
	建築製図	実習	2	1			○		○
材料関連	造形金属材料入門	講義	2	2					○
	造形工学基礎	講義	2	2		○			○
	技術開発論	講義	2	3					○
	金属材料加工法	講義	2	2					○
	木質材料入門	講義	2	1		○			○
	有機材料入門	講義	2	2					○
	造形工学基礎実験	実習	2	2					○

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン工芸 コース	文化マネジメント コース	デザイン情報 コース	造形建築科学 コース	
芸術文化論関連	現代美術論	講義	2	2	◎		○			
	現代工芸論	講義	2	3		○	○			
	伝統芸能論	講義	2	2			◎			
	地域産業論	講義	2	3		○	○			
	文化と行政	講義	2	2			○			
	国際観光論	講義	2	3			◎			
	観光英語	演習	2	2			○			
	アートマネジメント総論	講義	2	2	○		◎			
	博物館概論	講義	2	3	○		○			
	情報造形論	講義	2	3	○		○			
	保存と修復	講義	2	3	○		○			
卒業要件単位数		必修			2	2	6	6	0	
		選必			10	10	6	6	12	
		選択				8以上	8以上	8以上	8以上	8以上
		計				20以上	20以上	20以上	20以上	20以上

備考

・◎は必修科目、○は選択必修科目、空欄は選択科目を示す。

6. 専門教育科目（展開科目）

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン コース	文化 マネジメント コース	デザイン 情報 コース	造形 建築 科学 コース
情報処理 関連	インタラクティブアートプログラミング基礎	演習	2	2	○			○	
	インタラクティブアートプログラミング応用	演習	2	3	○			○	
	インタラクティブアートプログラミング総合	演習	2	3	○				
	図形情報実習	実習	2	3	○			○	
	メディアアート技術論	講義	2	3	○		○		
造形 関連	インタラクティブアート応用演習	演習	2	3	○				
	絵画A	実習	2	2	○	○			
	絵画B	実習	2	3	○				
	絵画C	実習	2	4	○				
	環境絵画A	実習	2	2	○	○			
	環境絵画B	実習	2	2	○				
	環境造形A(塑造)	実習	2	2	○				
	環境造形B(木材)	実習	2	3	○				
	環境造形C(金属)	実習	2	3	○				
	金属立体造形	実習	2	4	○	○			
	彫刻実習Ⅰ(木彫)	実習	2	3	○				
	彫刻実習Ⅱ(木彫)	実習	2	4	○				
	彫刻実習A(塑造)	実習	2	3	○				
	彫刻実習B(塑造)	実習	2	4	○				
	インタラクティブアート総合実習	実習	2	4	○			○	
工芸 関連	工芸プロダクト・デザイン	演習	2	3		○			
	原型制作	実習	2	3		○			
	込型鑄造	実習	2	3		○			
	ジュエリー制作	実習	2	3		○			
	石膏鑄造	実習	2	3		○			
	鍛金	実習	2	2		○			
	生型鑄造	実習	2	2		○			
	蒔絵	実習	2	3		○			
	螺鈿	実習	2	3		○			
	漆造形表現	実習	2	3	○	○			
	食器制作	実習	2	4		○			
	変わり塗り	実習	2	3		○			
	家具デザイン・制作	実習	2	3		○			
	工芸プロダクト・制作	実習	2	3		○			

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン工芸 コース	文化マネジメント コース	デザイン情報 コース	造形建築科学 コース
デザイン関連	インフォメーションデザイン演習	演習	2	2				◎	
	インタフェースデザイン演習	演習	2	4				○	
	広告デザイン演習	演習	2	3				○	
	ブランドデザイン	演習	2	4				○	○
	サインデザイン演習	演習	2	3				○	○
	プロダクトデザイン	演習	2	2		○			○
	事業計画立案演習	演習	2	3				◎	
	ビジュアルコミュニケーション演習B	演習	2	3				◎	
	ビジュアルコミュニケーション演習C	演習	2	4					
	形態発想実習	実習	2	2		○			○
	プロダクトデザイン実習A	実習	2	3		○			○
	プロダクトデザイン実習B	実習	2	3		○		○	○
	建築関連	建築論	講義	2	3			○	
建築生産		講義	2	2					○
建築設備		講義	2	3					○
建築法規		講義	2	4					○
木質構造		講義	2	3					○
建築材料		講義	2	3					○
構造力学2		講義	2	4					○
空間デザインA(シェルター)		実習	2	2					○
空間デザインB(家具)		実習	2	2		○			○
空間デザインC(戸建住宅)		実習	2	2					○
空間デザインD(集合住宅)		実習	2	3					○
空間デザインE(非木造の特殊建築物)		実習	2	3					○
空間デザインF(インテリア)		実習	2	4		○			○
人間工学設計法		実習	2	3		○			○
木質構造実習(木造軸組住宅)	実習	2	3					○	
材料関連	造形材料(金属材料)	講義	2	3		○			○
	造形材料(有機材料)	講義	2	2		○			○
	造形材料(表面処理)	講義	2	3		○			○
	造形材料(木質材料)	講義	2	2		○			○
	造形金属新素材	講義	2	4					○
	塗料化学	講義	2	3					○
	造形材料実験(金属材料)	実習	2	3					○
	造形材料実験(表面処理)	実習	2	3					○
	造形材料実験(木質材料)	実習	2	3					○
	造形材料実験(有機材料)	実習	2	3					○

分野	科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン工芸 コース	文化マネジメント コース	デザイン情報 コース	造形建築科学 コース
芸術文化論関連	アートマネジメント論(公演芸術)	講義	2	2			○		
	マーケティング・マネジメント	演習	2	2			○		
	鑑賞と批評(日本美術)	演習	2	3	○		○		
	鑑賞と批評(伝統芸能)	演習	2	3	○		○		
	環境芸術論	講義	2	3	○		○		
	環境美学	講義	2	3	○		○		○
	企業メセナ論	講義	2	3			○		
	プロデュースシステム	演習	2	3		4 単位	○		
	NPO企画演習	演習	2	2			○		
	パブリックアート論	講義	2	2	○		○		
	都市計画と文化	講義	2	3			○		
	伝統思想論	講義	2	3	○		○		
	地域と文化事業マネジメント	演習	2	3	○		○		
	文化施設計画論	講義	2	3			○		
	日本美術史料研究	演習	2	3			○		
	伝統文化資料研究	演習	2	3			○		
卒業要件単位数		必修		0	0	0	6	0	
		選必		12	12	12	6	12	
		選択		8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	
		計		20以上	20以上	20以上	20以上	20以上	

備考

・◎は必修科目、○は選択必修科目、空欄は選択科目を示す。

7. 専門教育科目 (卒業研究・制作)

科目名	実施形態	単位数	年次	造形芸術 コース	デザイン工芸 コース	文化マネジメント コース	デザイン情報 コース	造形建築科学 コース
卒業研究・制作	実習	8	4	◎	◎	◎	◎	◎

備考

・◎は必修科目を示す。